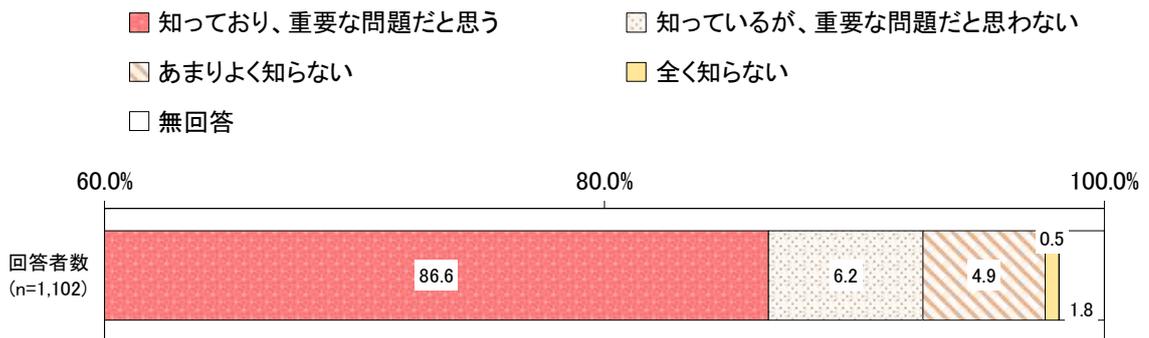


第10章 地球環境問題について

問49 あなたは、地球温暖化についてご存知ですか。また重要な問題だと思いますか。
(1つだけ○印)

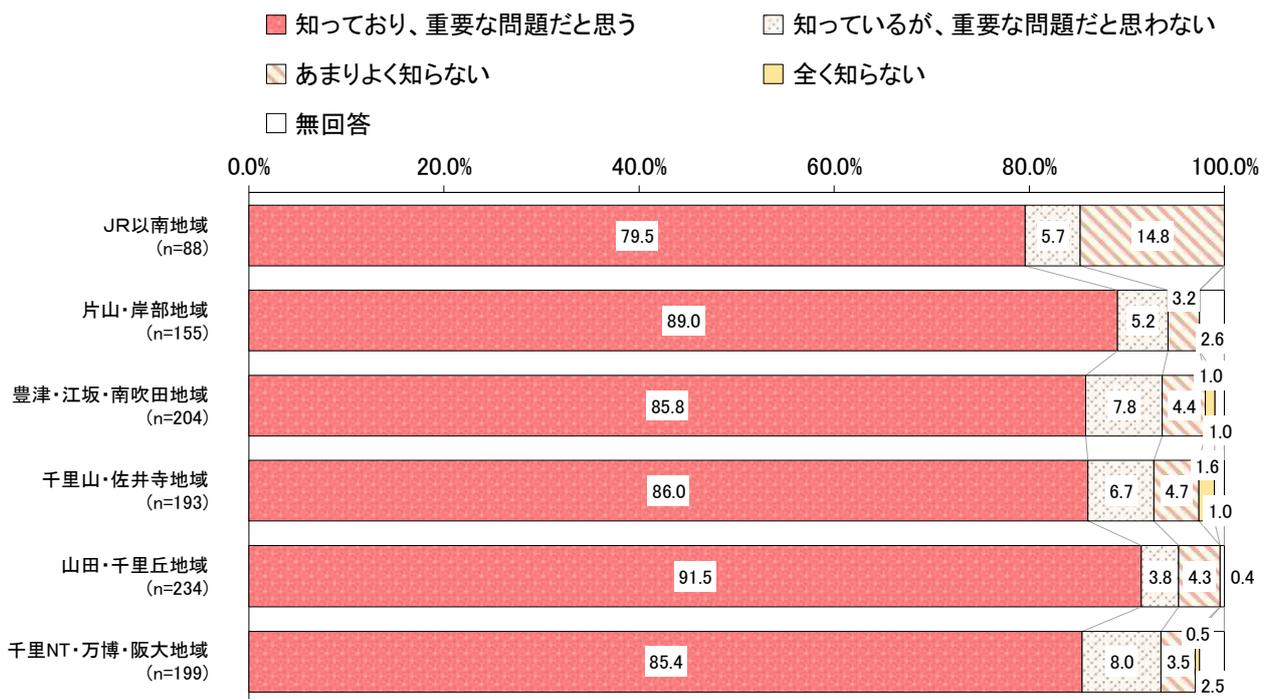
「知っており、重要な問題だと思う」の割合が86.6%と最も高く、次いで「知っているが、重要な問題だと思わない」の割合が6.2%、「あまりよく知らない」の割合が4.9%となっています。

図表10-1 地球温暖化の認知度（単純回答）



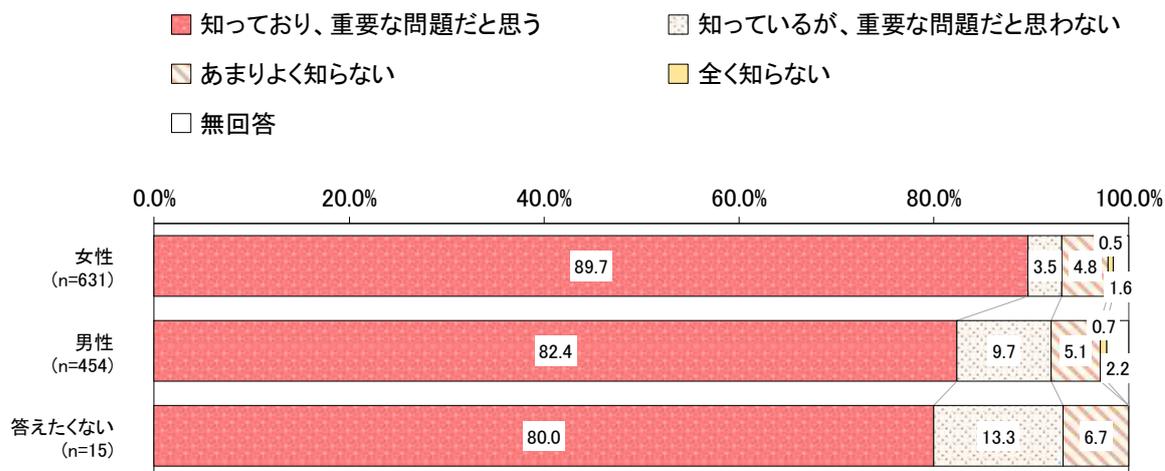
居住地域別で見ると、他に比べ、山田・千里丘地域で「知っており、重要な問題だと思う」の割合が最も高くなっています。

図表10-2 地球温暖化の認知度（居住地域別）



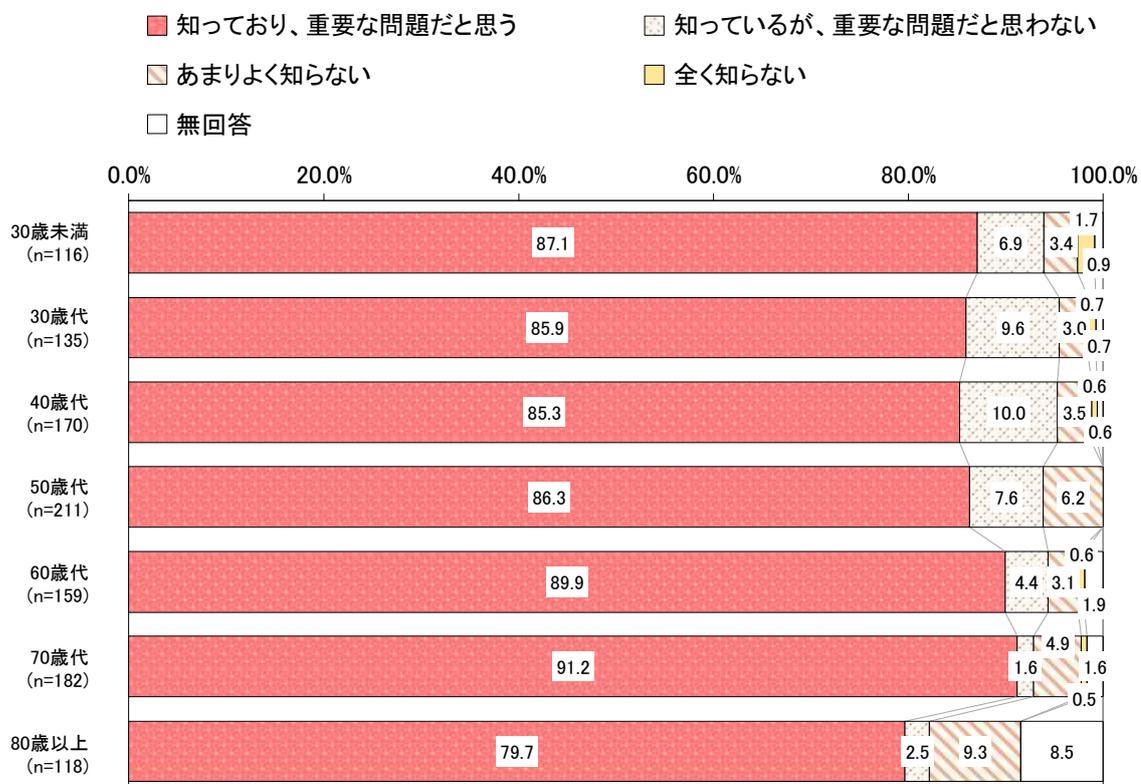
性別でみると、男性より女性の方が「知っており、重要な問題だと思う」と答えています。

図表10-3 地球温暖化の認知度（性別）



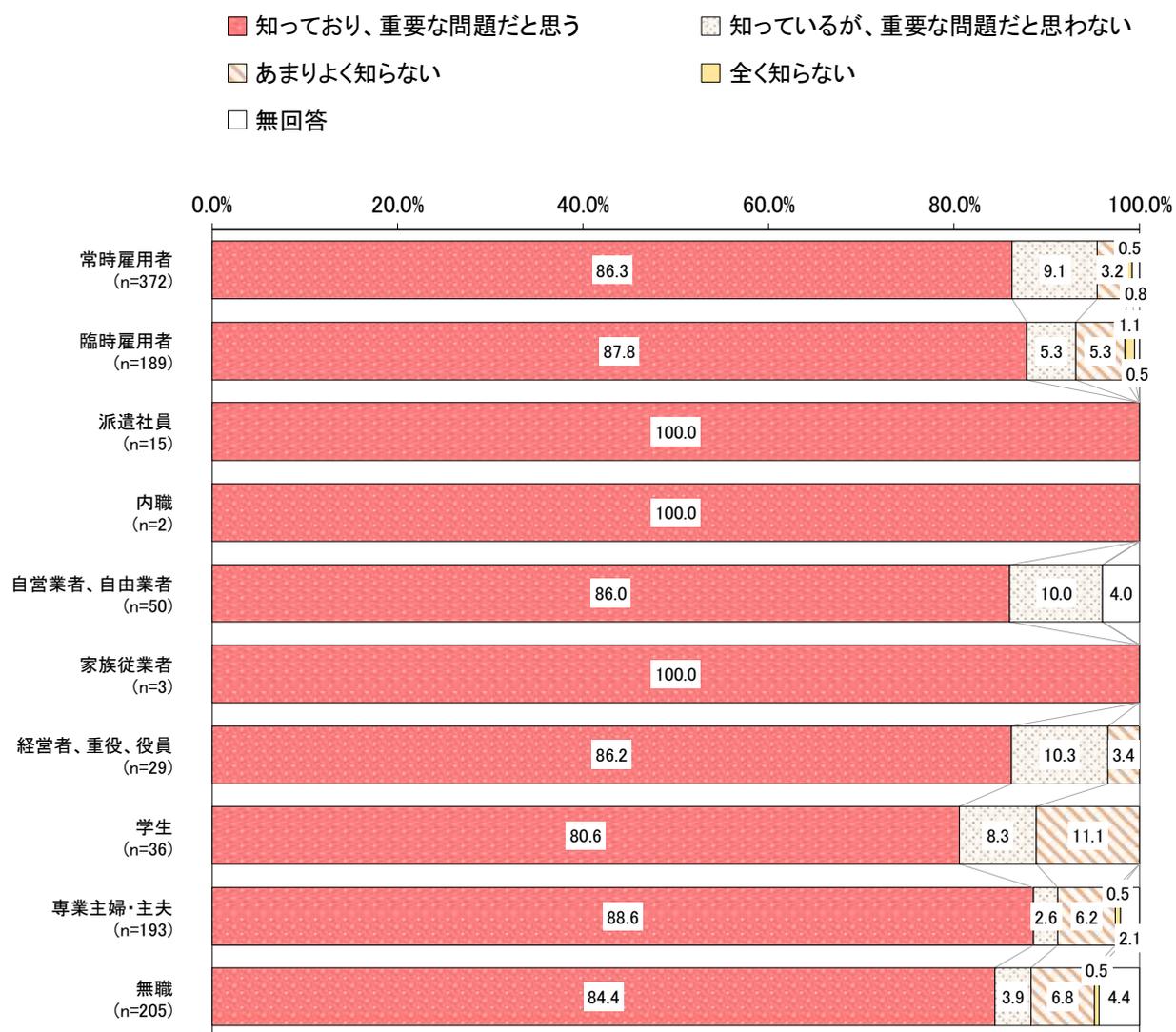
年齢別でみると、他に比べ、70歳代で「知っており、重要な問題だと思う」の割合が最も高くなっています。

図表10-4 地球温暖化の認知度（年齢別）



職業別でみると、以下のとおりです。

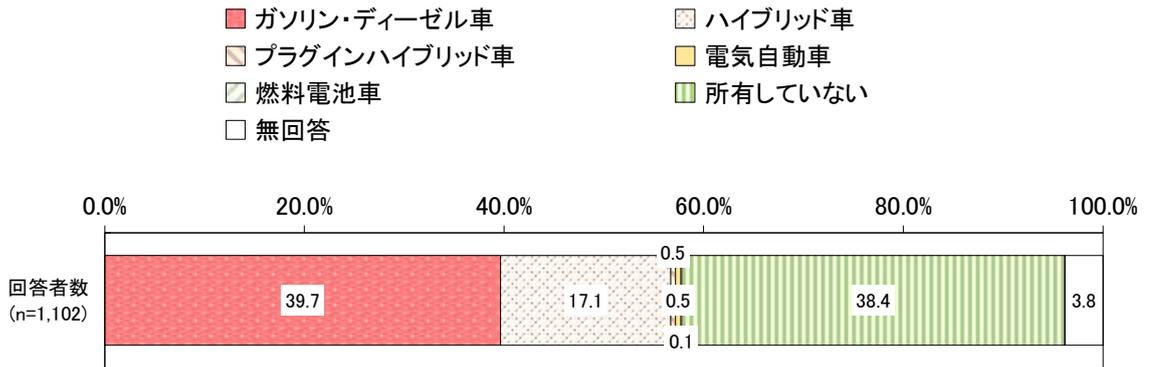
図表10-5 地球温暖化の認知度（職業別）



問 50 現在所有されている車のうち、主に利用している車の種類を教えてください。
(1つだけ○印)

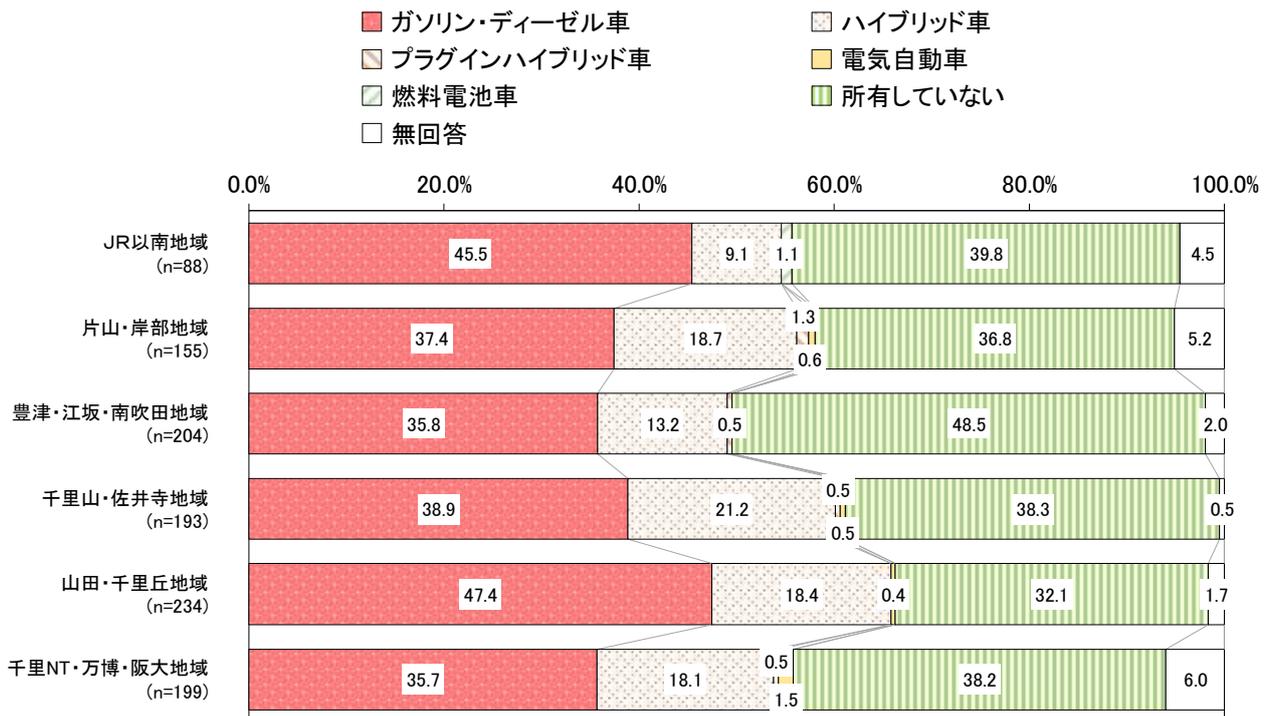
「ガソリン・ディーゼル車」の割合が39.7%と最も高く、次いで「所有していない」の割合が38.4%、「ハイブリッド車」の割合が17.1%となっています。

図表10-6 主に利用している車の種類 (単純回答)



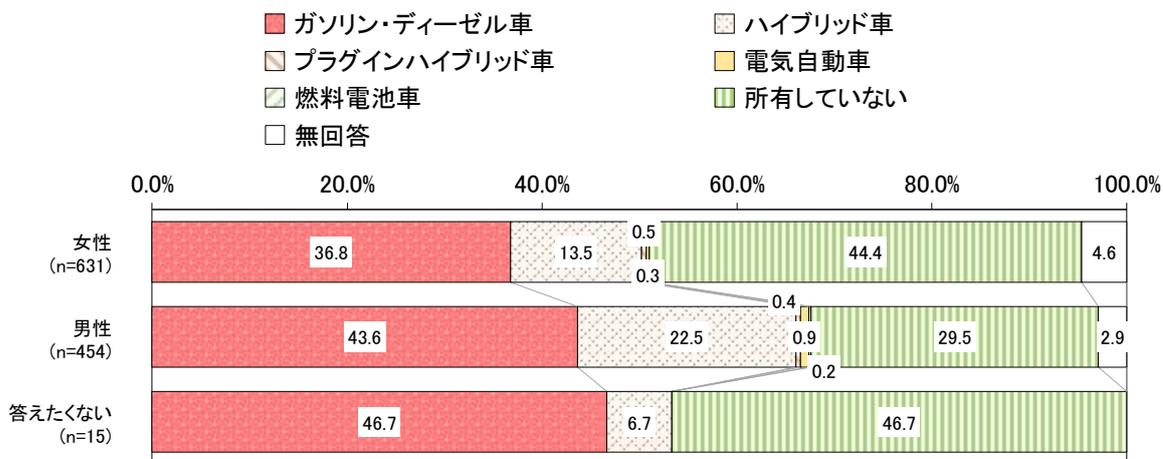
居住地域別で見ると、他に比べ、豊津・江坂・南吹田地域で「所有していない」の割合が最も高くなっています。

図表10-7 主に利用している車の種類 (居住地域別)



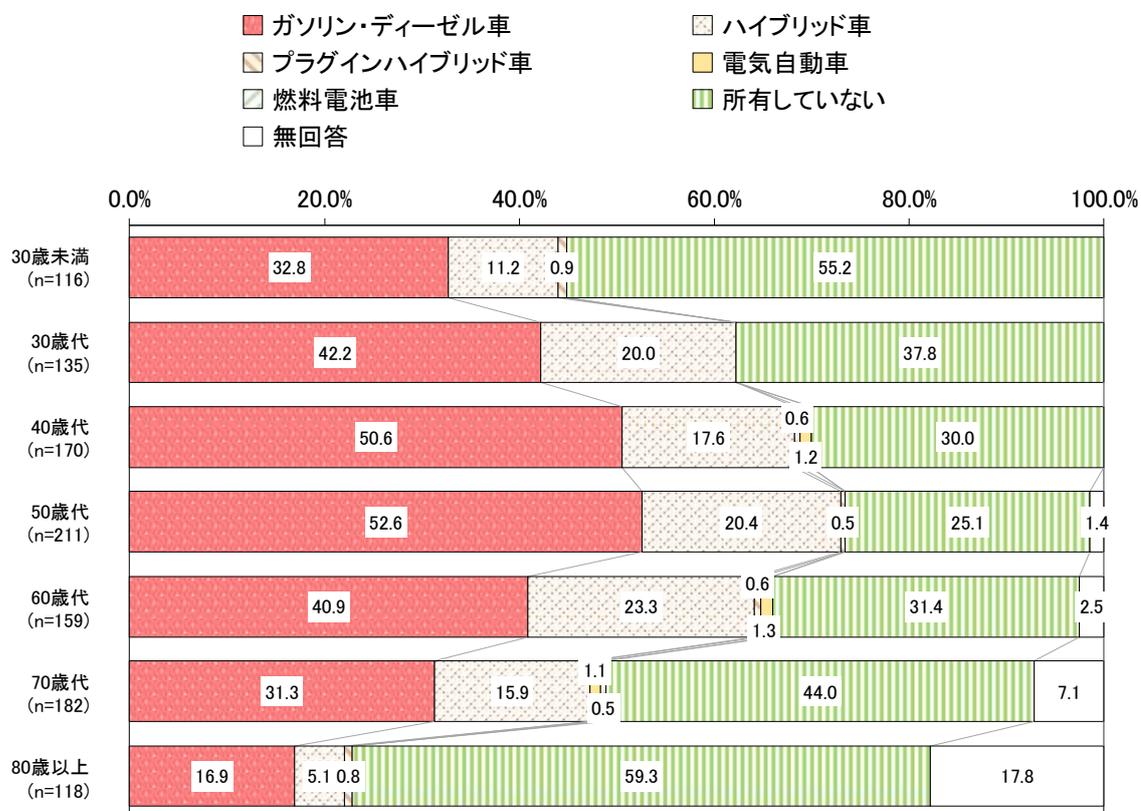
性別でみると、男性より女性の方が「所有していない」と答えています。

図表10-8 主に利用している車の種類（性別）



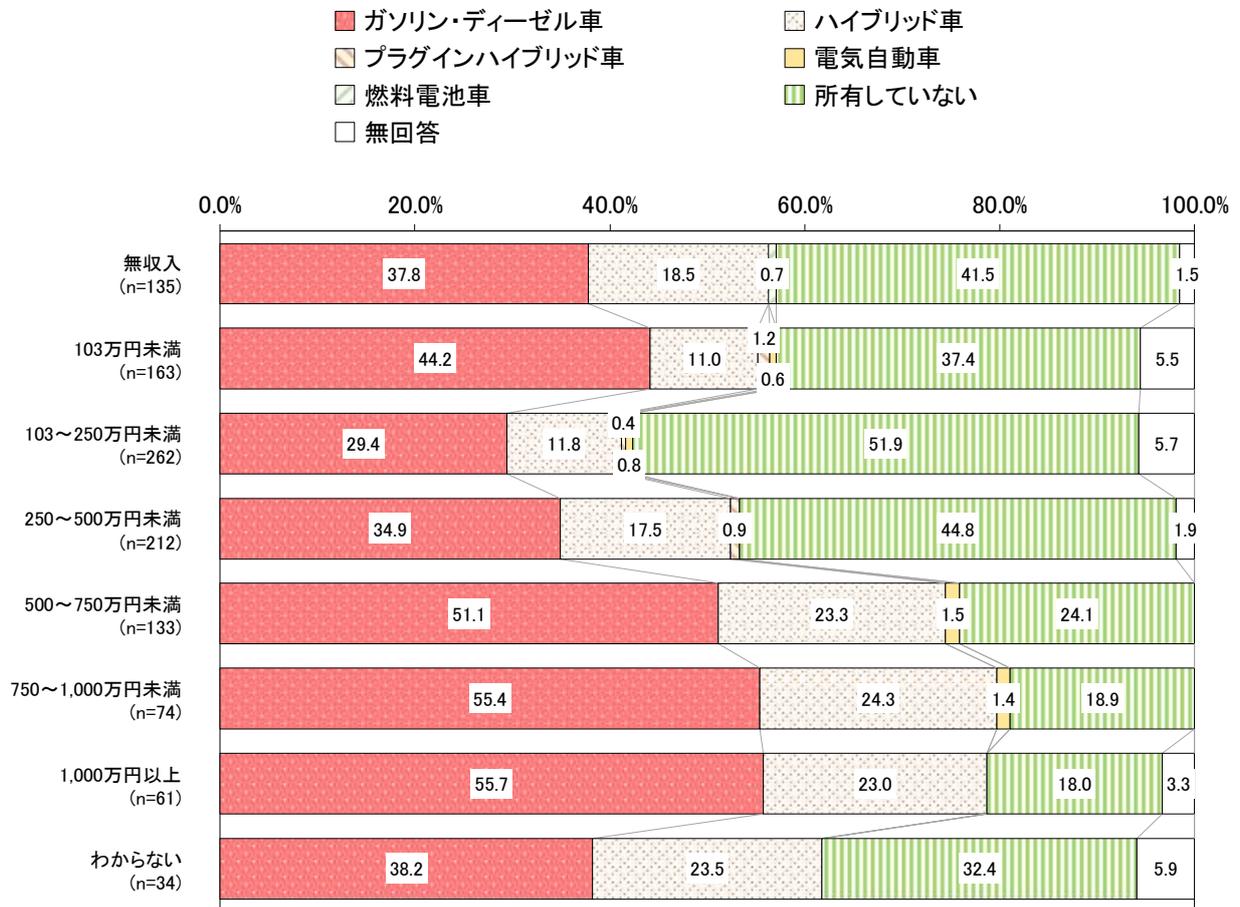
年齢別でみると、他に比べ、80歳以上で「所有していない」の割合が最も高くなっています。

図表10-9 主に利用している車の種類（年齢別）



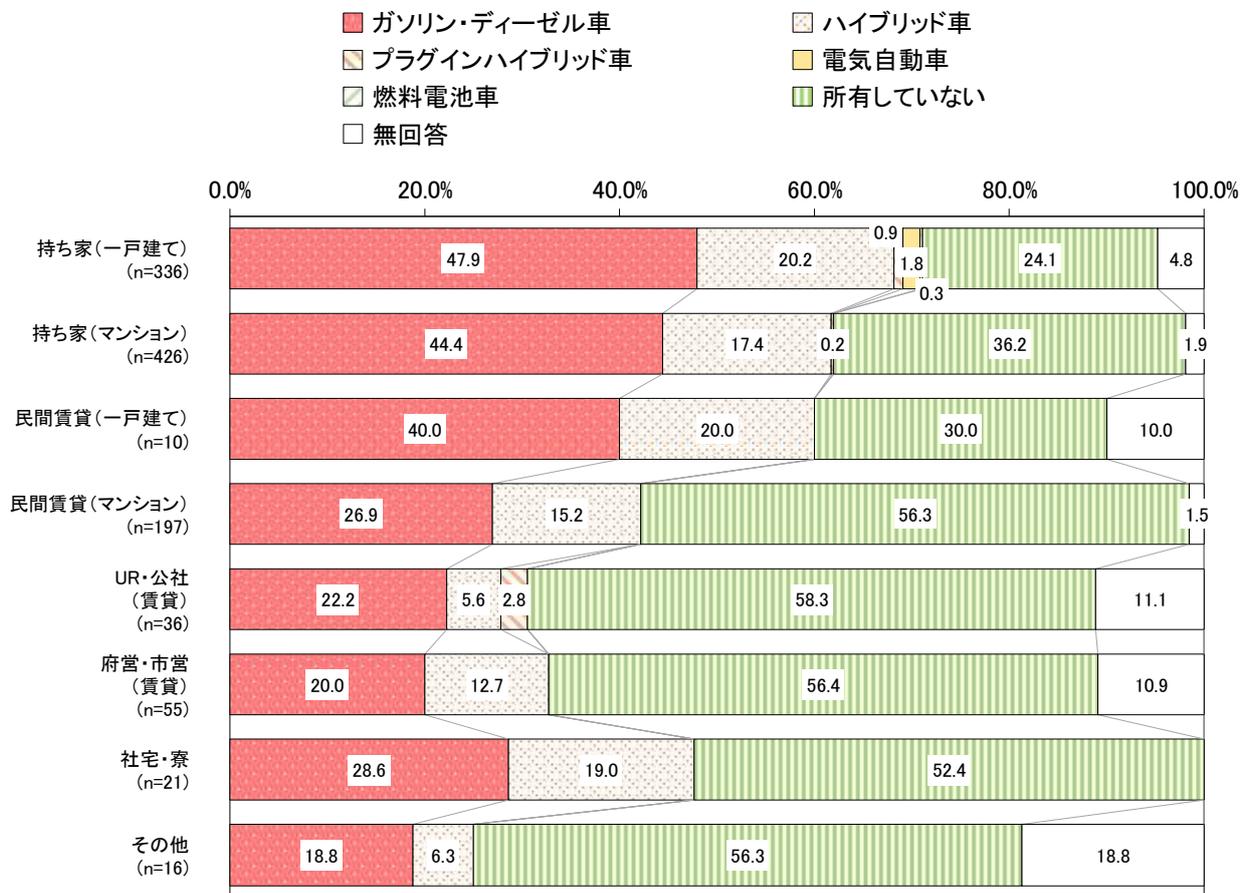
個人収入別で見ると、他に比べ、1,000万円以上で「ガソリン・ディーゼル車」の割合が最も高くなっています。

図表10-10 主に利用している車の種類（個人収入別）



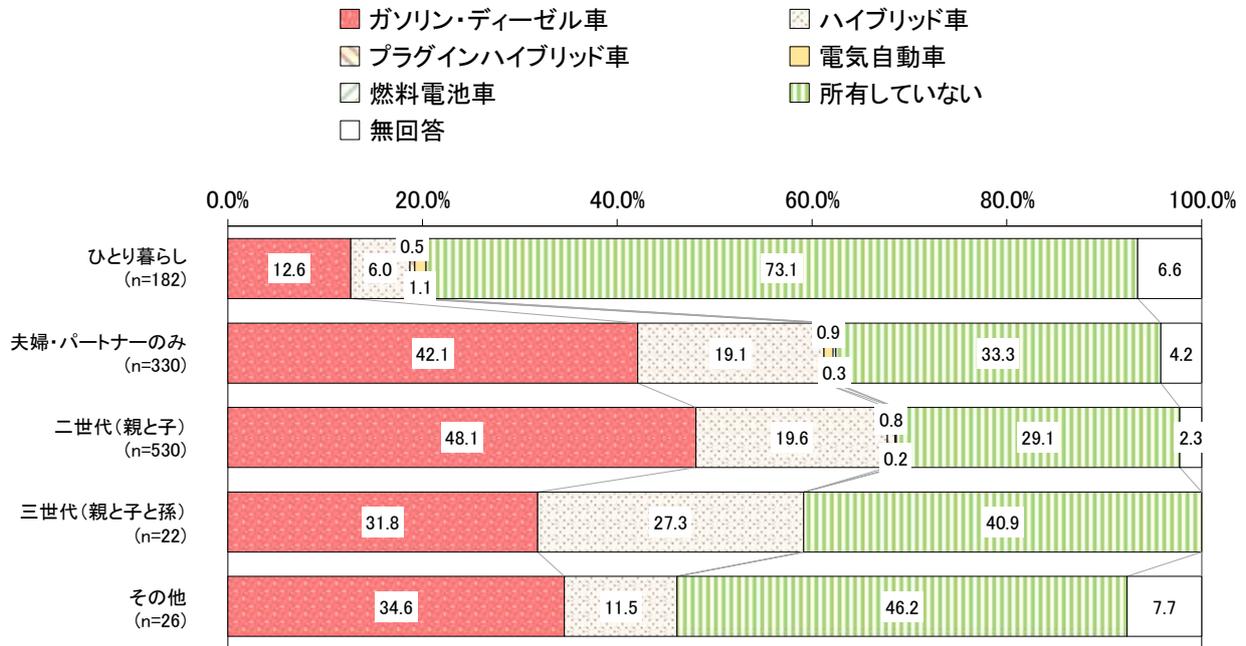
居住形態別で見ると、他に比べ、UR・公社（賃貸）で「所有していない」の割合が最も高くなっています。

図表 10-11 主に利用している車の種類（居住形態別）



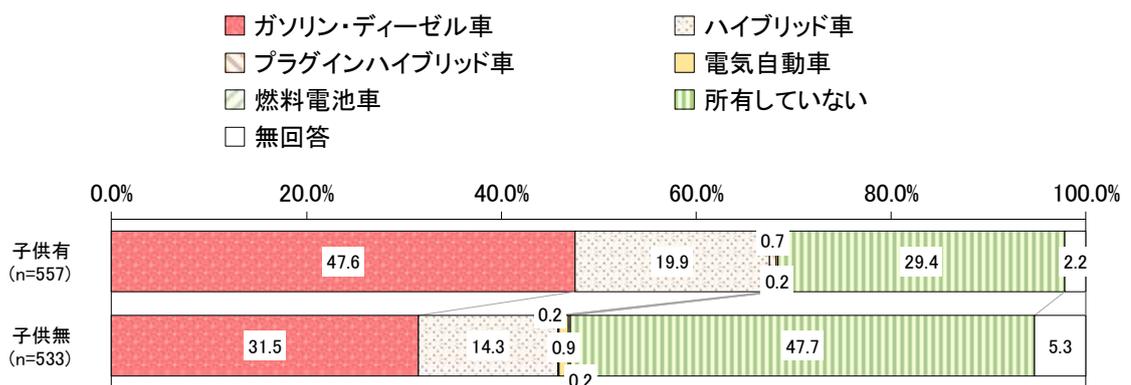
家族構成別でみると、他に比べ、ひとり暮らしで「所有していない」の割合が最も高くなっています。

図表 10-12 主に利用している車の種類（家族構成別）



子供の有無別でみると、子供有の方に比べ、子供無の方で「所有していない」の割合が高くなっています。

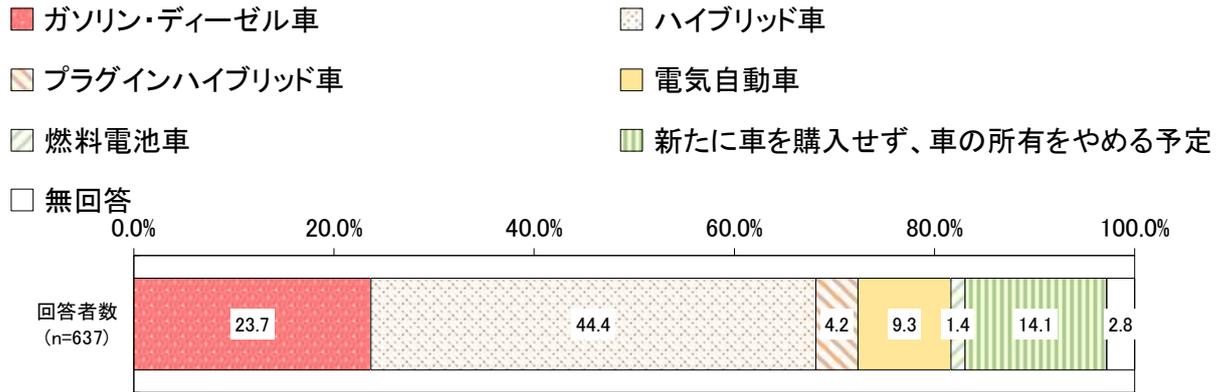
図表 10-13 主に利用している車の種類（子供の有無別）



問 50-1 乗り換えの時期が来た場合に、乗り換えたい車の種類を教えてください。
(1つだけ○印)

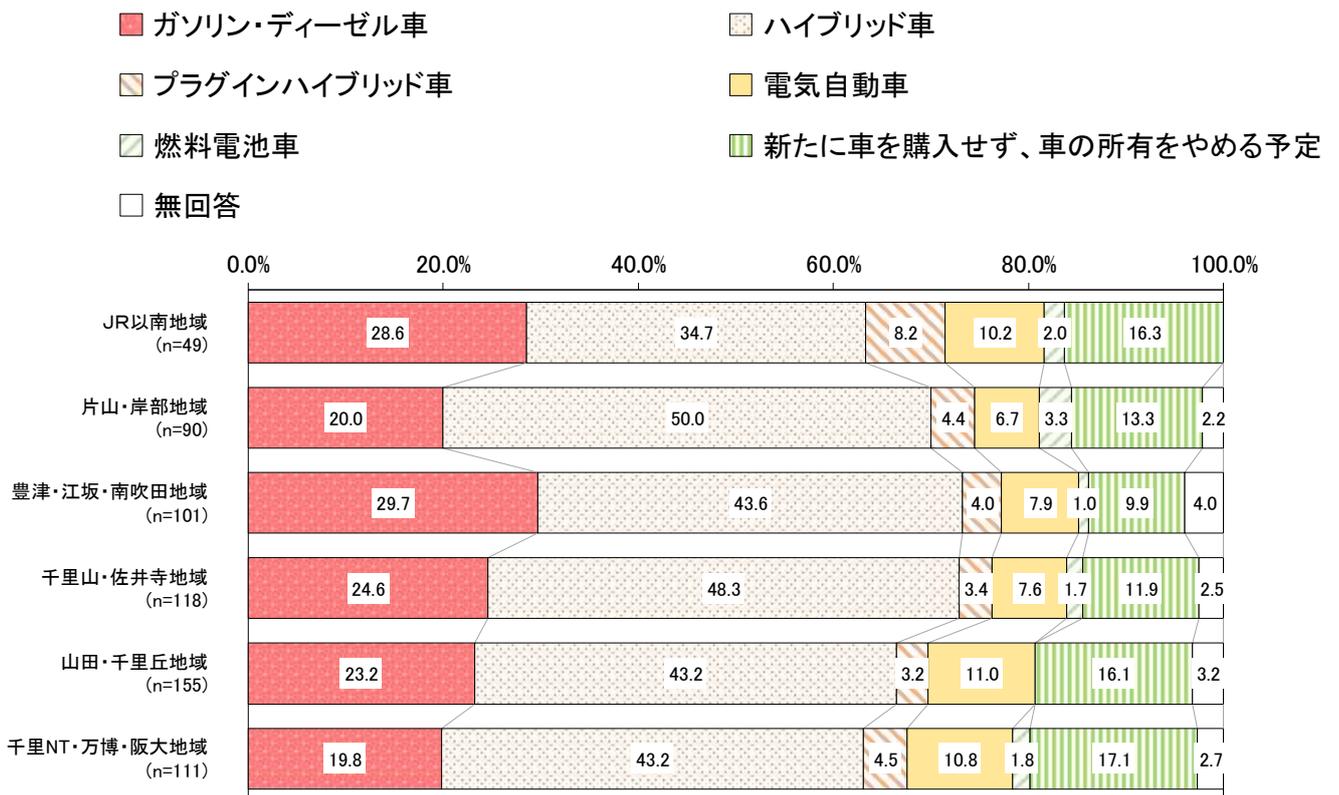
「ハイブリッド車」の割合が44.4%と最も高く、次いで「ガソリン・ディーゼル車」の割合が23.7%、「新たに車を購入せず、車の所有をやめる予定」の割合が14.1%となっています。

図表10-14 乗り換えたい車の種類 (単純回答)



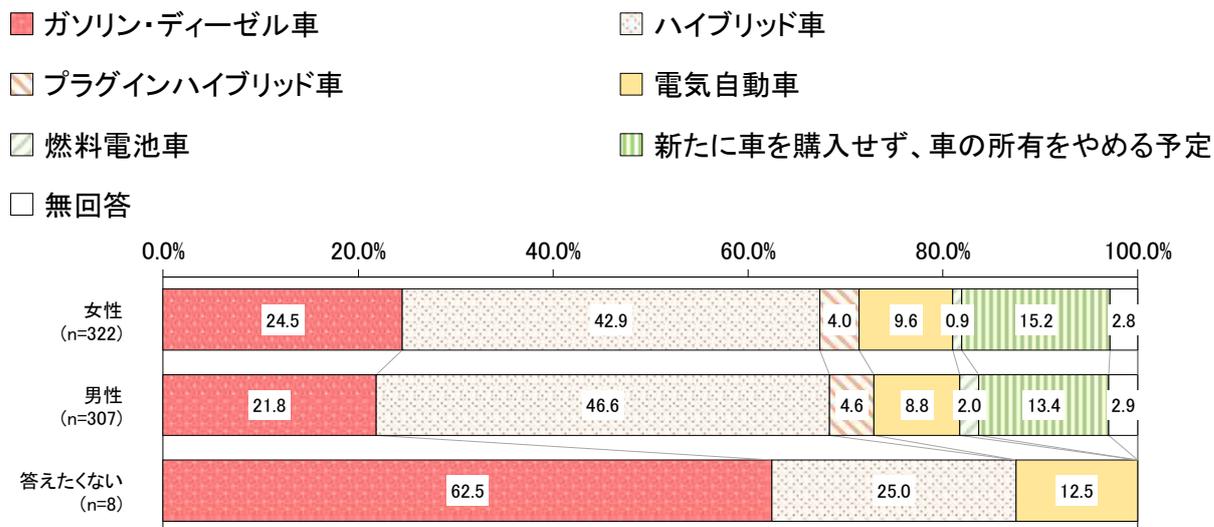
居住地域別で見ると、他に比べ、片山・岸部地域で「ハイブリッド車」の割合が最も高くなっています。

図表10-15 乗り換えたい車の種類 (居住地域別)



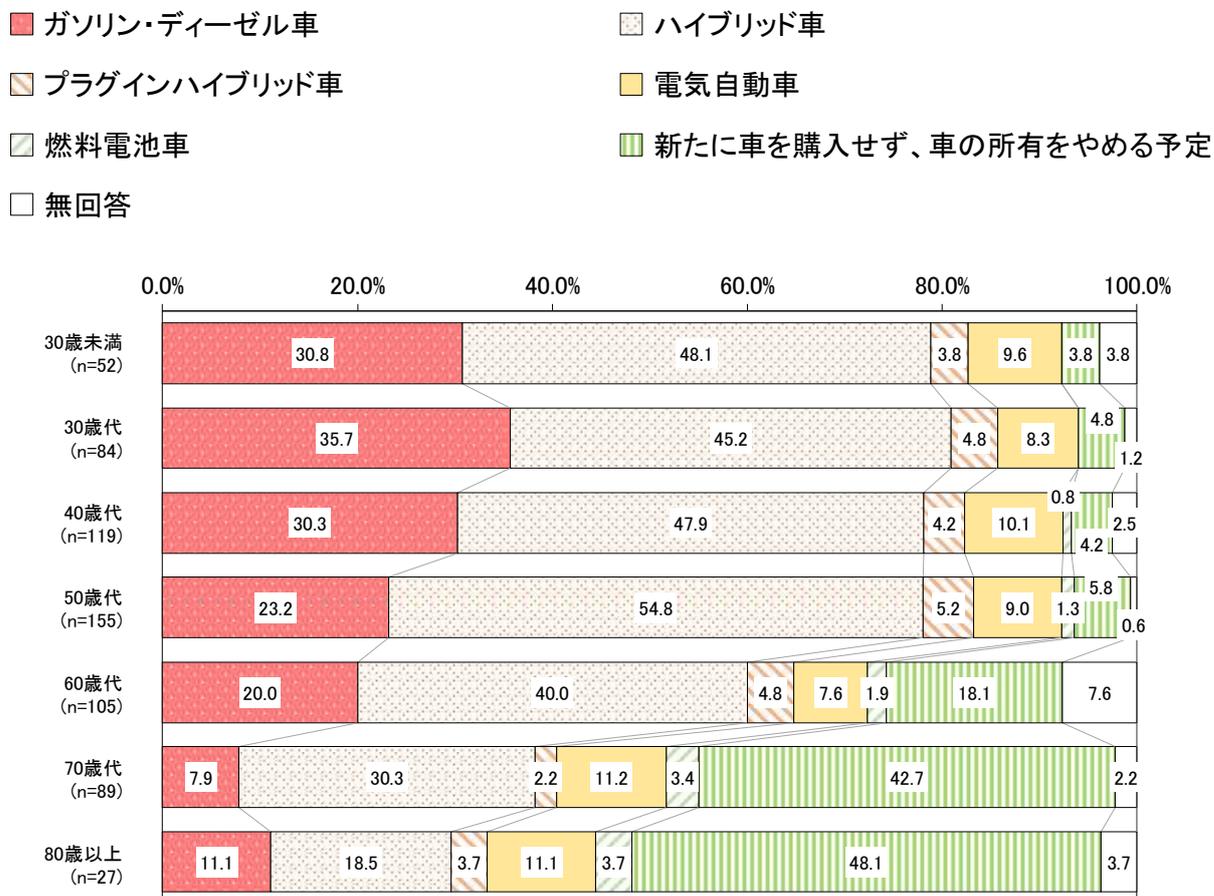
性別でみると、大きな差異はみられません。

図表10-16 乗り換えたい車の種類（性別）



年齢別でみると、他に比べ、50歳代で「ハイブリッド車」の割合が最も高くなっています。

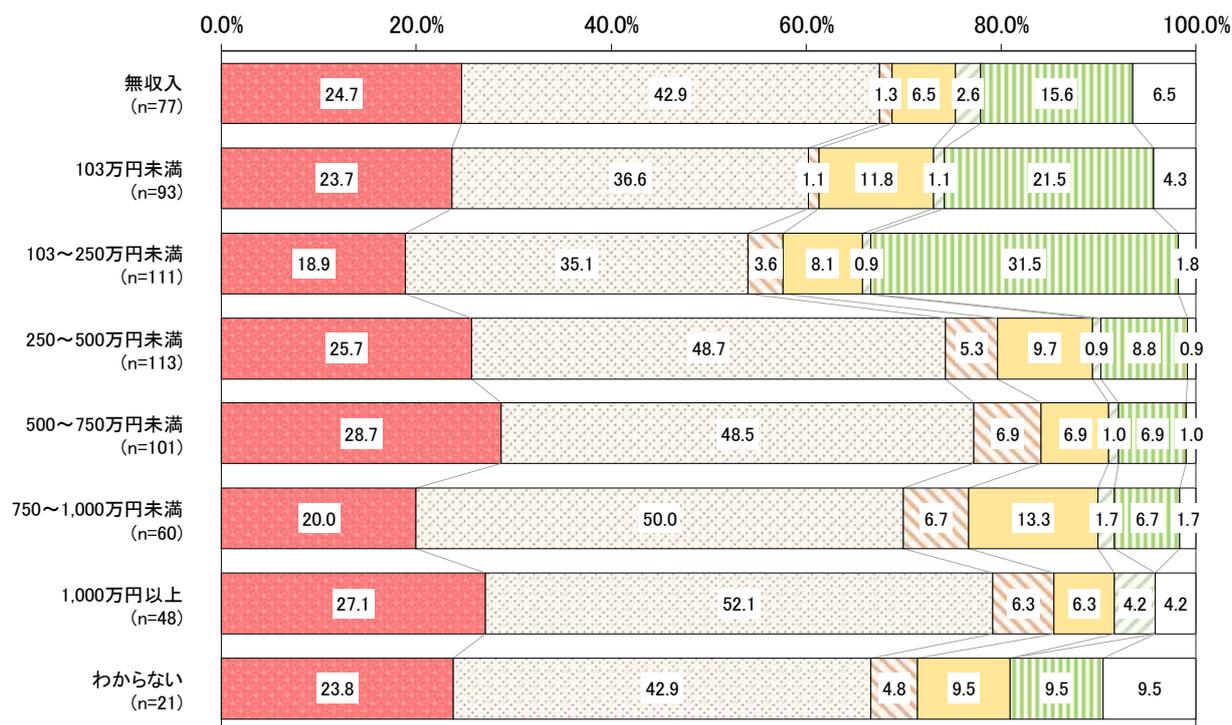
図表10-17 乗り換えたい車の種類（年齢別）



個人収入別で見ると、他に比べ、1,000万円以上で「ハイブリッド車」の割合が最も高くなっています。

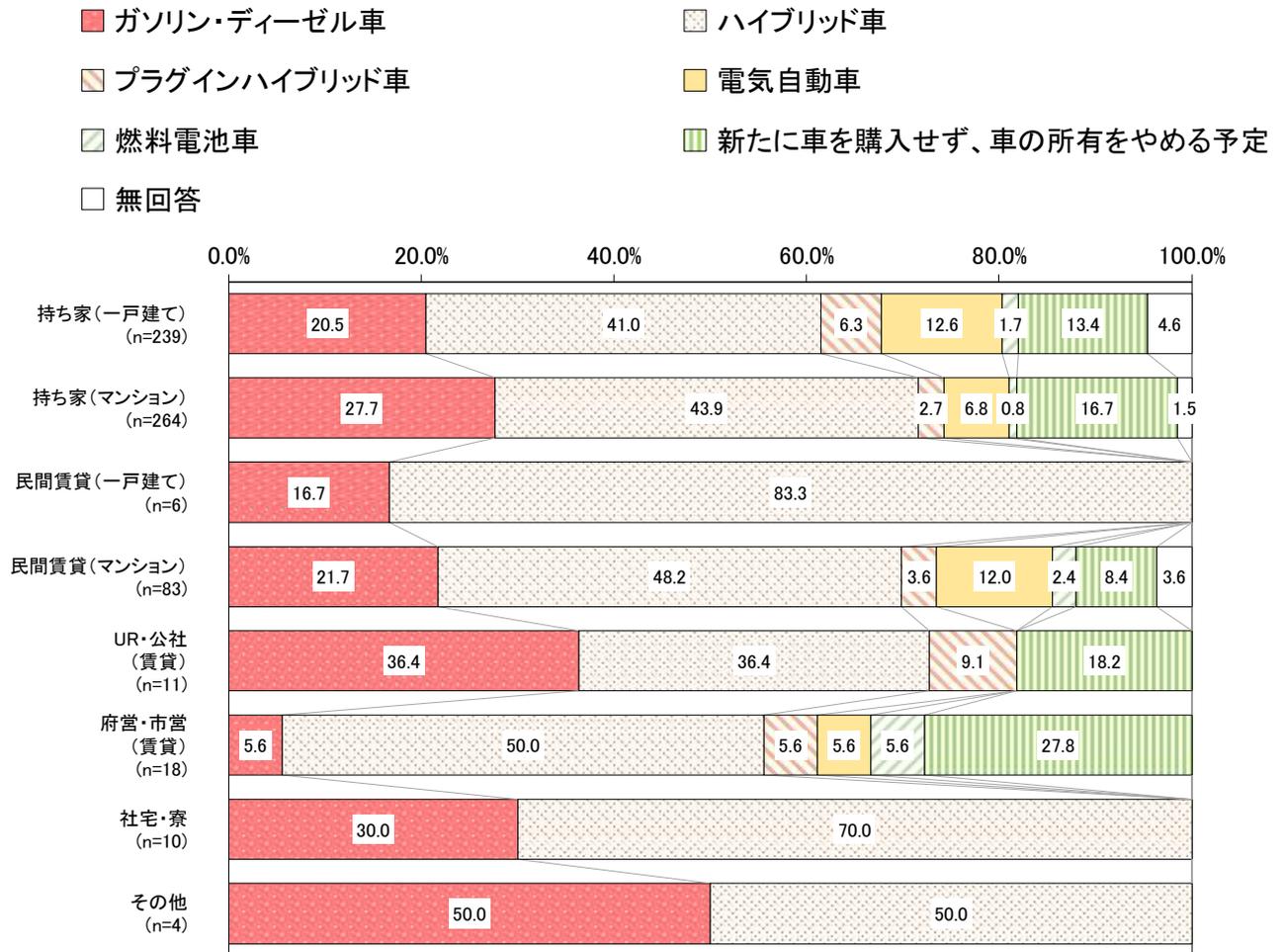
図表10-18 乗り換えたい車の種類（個人収入別）

- ガソリン・ディーゼル車
- ハイブリッド車
- プラグインハイブリッド車
- 電気自動車
- 燃料電池車
- 新たに車を購入せず、車の所有をやめる予定
- 無回答



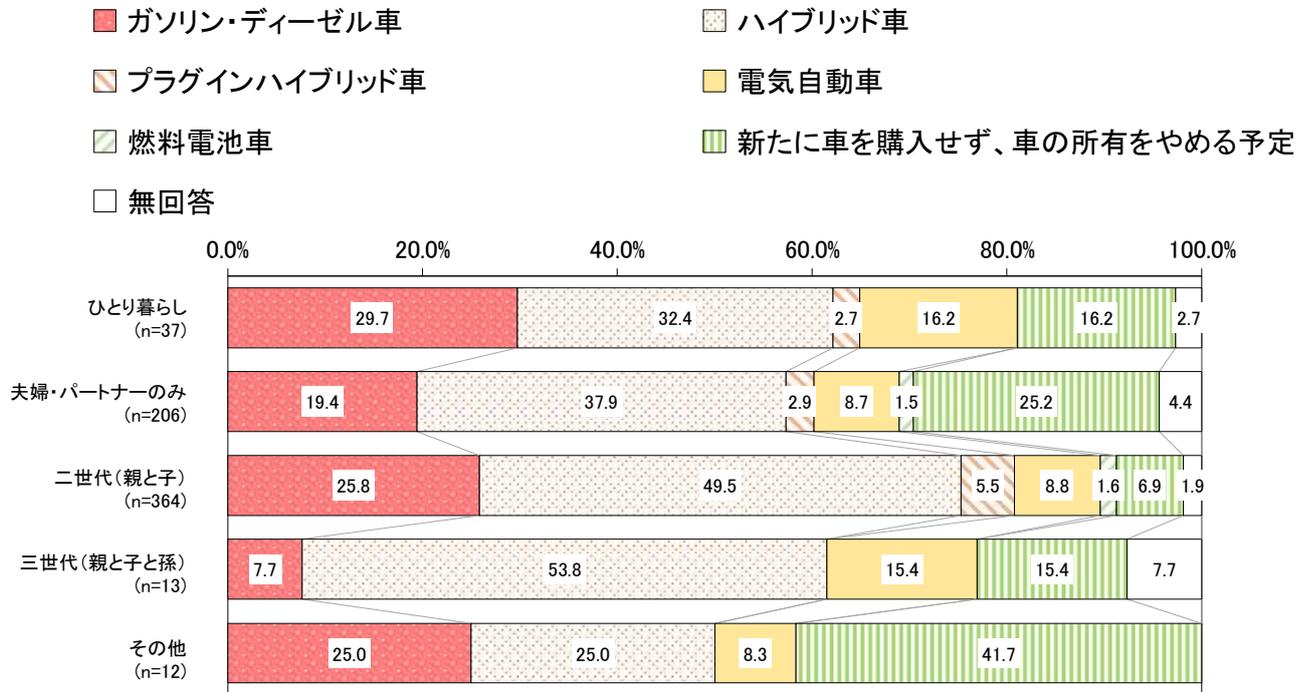
居住形態別で見ると、他に比べ、民間賃貸（一戸建て）で「ハイブリッド車」の割合が最も高くなっています。

図表 10-19 乗り換えたい車の種類（居住形態別）



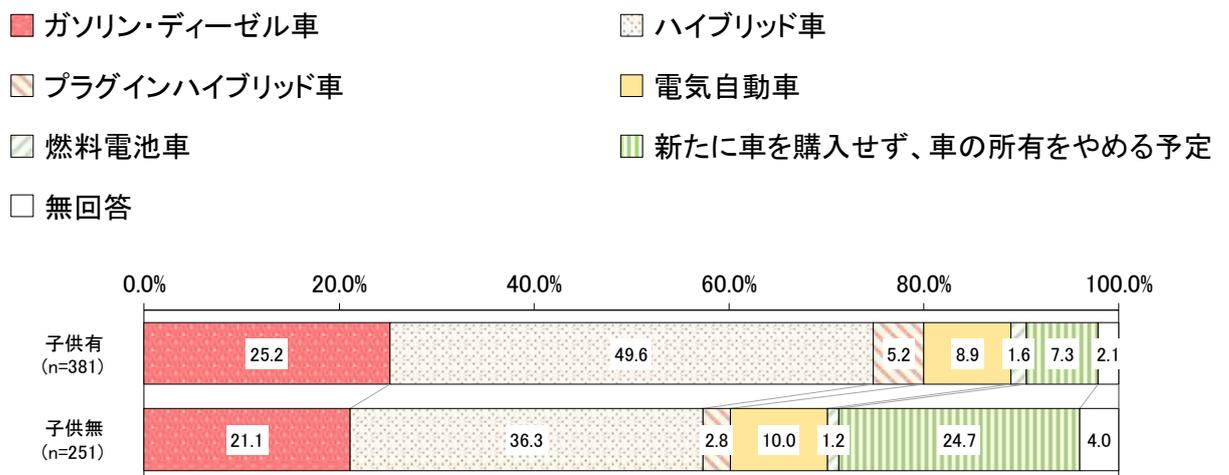
家族構成別でみると、他に比べ、三世代（親と子と孫）で「ハイブリッド車」の割合が最も高くなっています。

図表 10-20 乗り換えたい車の種類（家族構成別）



子供の有無別でみると、子供無の方に比べ、子供有の方で「ハイブリッド車」の割合が高くなっています。

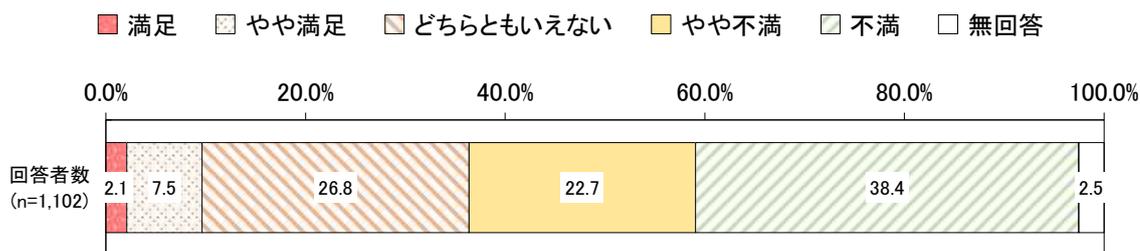
図表 10-21 乗り換えたい車の種類（子供の有無別）



問 51 あなたは、居住地周辺の夏場の暑さ（涼しさ）について、どの程度満足していますか。（1つだけ〇印）

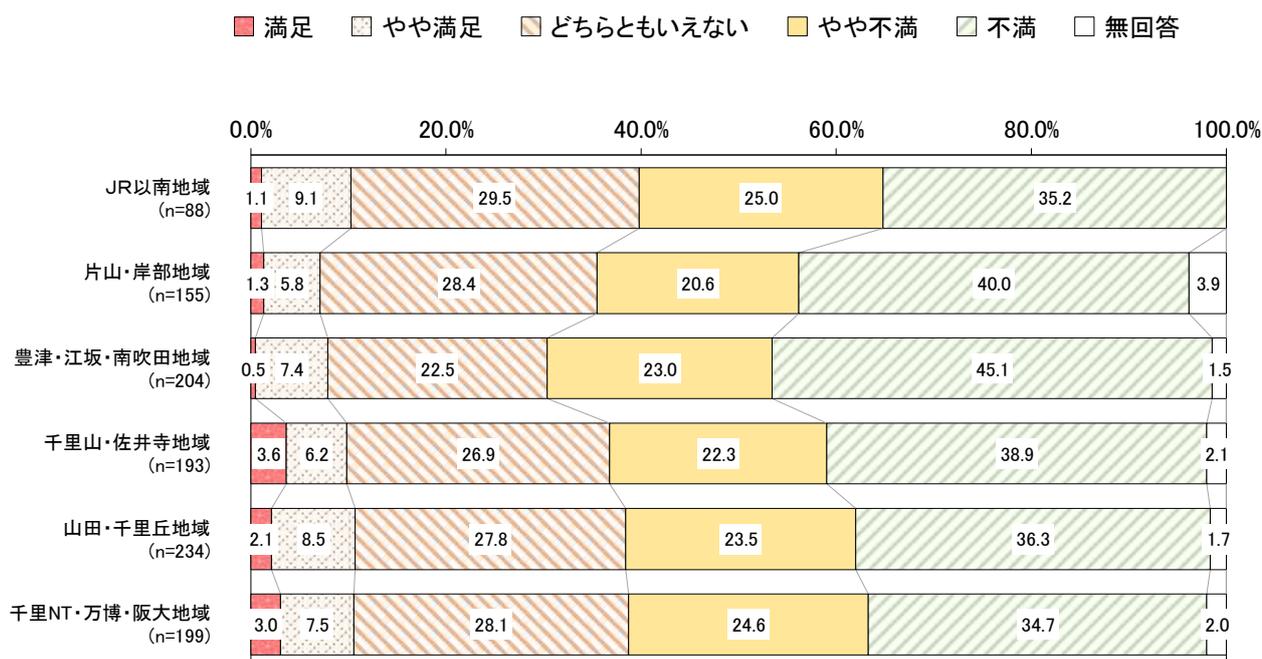
「やや不満」と「不満」をあわせた“不満”の割合が61.1%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が26.8%、「満足」と「やや満足」をあわせた“満足”の割合が9.6%となっています。

図表10-22 居住地周辺の夏場の暑さ（涼しさ）について（単純回答）



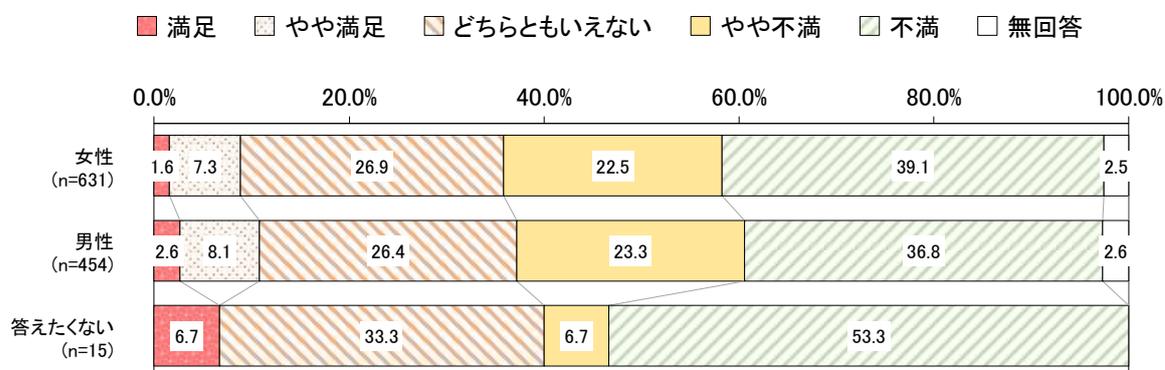
居住地域別で見ると、他に比べ、豊津・江坂・南吹田地域で“不満”の割合が最も高くなっています。

図表10-23 居住地周辺の夏場の暑さ（涼しさ）について（居住地域別）



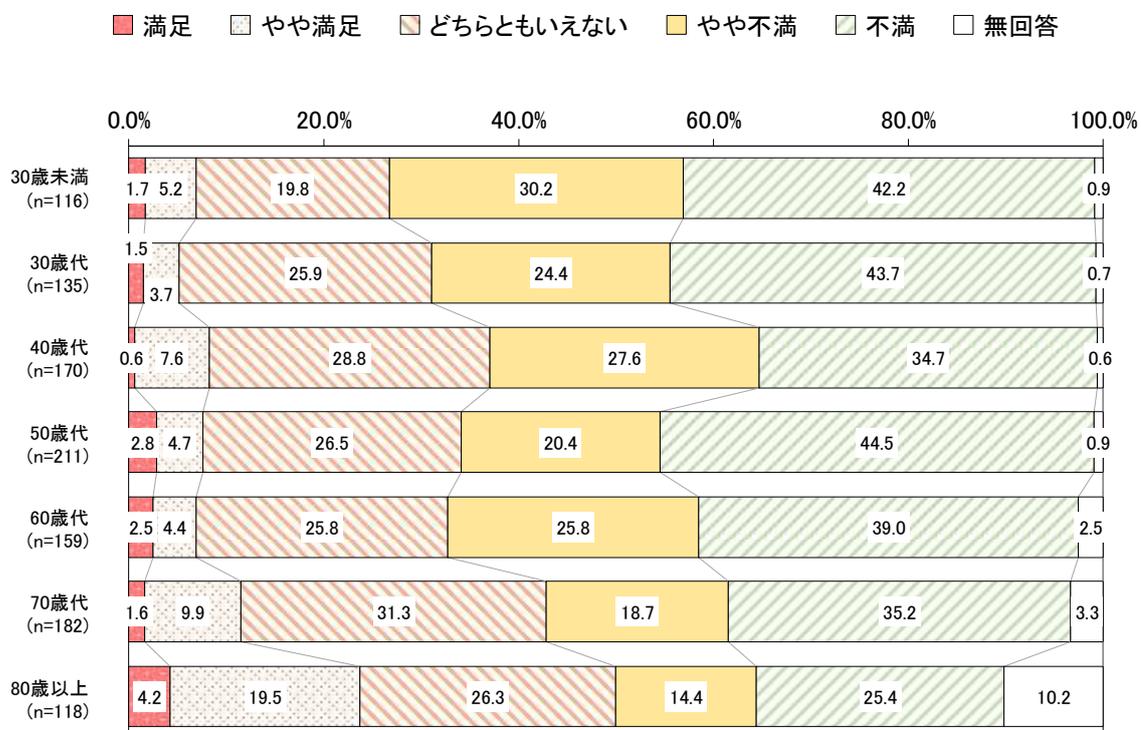
性別でみると、大きな差異はみられません。

図表10-24 居住地周辺の夏場の暑さ（涼しさ）について（性別）



年齢別でみると、他に比べ、30歳未満で「やや不満」と「不満」をあわせた“不満”の割合が最も高くなっています。

図表10-25 居住地周辺の夏場の暑さ（涼しさ）について（年齢別）

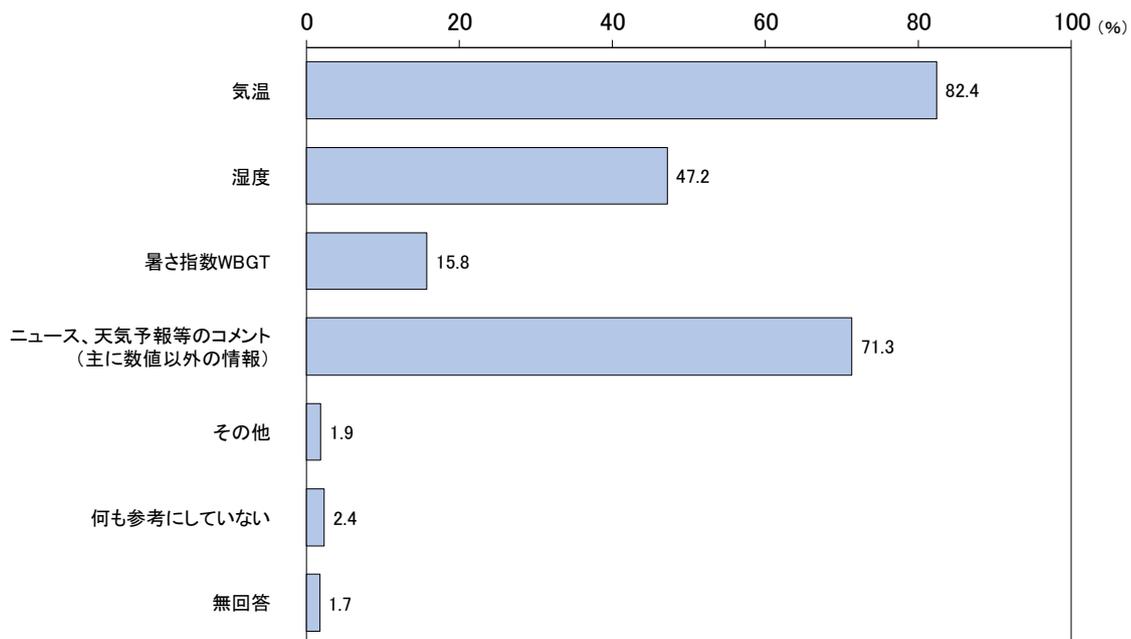


問 52 熱中症の危険度を把握するために、どのような情報を参考にしていますか。
(いくつでも)

「気温」の割合が82.4%と最も高く、次いで「ニュース、天気予報等のコメント（主に数値以外の情報）」の割合が71.3%、「湿度」の割合が47.2%となっています。

図表10-26 熱中症の危険度を把握するための情報ツール（単純回答）

(n=1,102)



居住地域別でみると、大きな差異はみられません。

図表10-27 熱中症の危険度を把握するための情報ツール（居住地域別）

単位：％

区分		有効回答数 (件)	気温	湿度	暑さ指数 WBGT	ニュース、天気予報等の コメント(主に数値以外の情 報)	その他	何も参考にしていない	無回答
居住地域別	JR以南地域	88	84.1	52.3	12.5	69.3	1.1	2.3	—
	片山・岸部地域	155	84.5	45.2	18.1	72.3	1.9	1.9	2.6
	豊津・江坂・南吹田地域	204	81.9	49.5	15.2	68.1	2.5	3.9	0.5
	千里山・佐井寺地域	193	82.9	49.2	19.2	73.1	1.0	1.0	1.0
	山田・千里丘地域	234	84.6	46.6	15.0	72.2	3.0	2.1	0.9
	千里NT・万博・阪大地域	199	82.4	45.7	14.1	72.4	1.5	2.0	2.0

性別でみると、男性より女性の方が「気温」と答えています。

図表 10-28 熱中症の危険度を把握するための情報ツール（性別）

単位：％

区分		有効回答数 (件)	気温	湿度	暑さ指数 WBGT	ニュース、天気予報等の コメント(主に数値以外の情 報)	その他	何も参考にしていない	無回答
性別	女性	631	85.3	49.3	17.0	75.3	1.6	0.8	1.7
	男性	454	78.2	43.2	13.7	65.9	2.4	4.6	1.8
	答えたくない	15	86.7	73.3	33.3	73.3	—	—	—

年齢別でみると、他に比べ、30歳代で「気温」の割合が最も高くなっています。

図表 10-29 熱中症の危険度を把握するための情報ツール（年齢別）

単位：%

区分		有効回答数 (件)	気温	湿度	暑さ指数 WBGT	ニュース、天気予報等の コメント(主に数値以外の情 報)	その他	何も参考にしていない	無回答
年齢別	30歳未満	116	86.2	46.6	18.1	56.0	1.7	2.6	0.9
	30歳代	135	90.4	50.4	20.0	67.4	3.0	2.2	0.7
	40歳代	170	83.5	46.5	19.4	71.2	0.6	4.7	0.6
	50歳代	211	81.5	43.6	16.1	73.0	2.8	1.4	—
	60歳代	159	81.8	54.1	15.7	76.7	1.9	1.3	1.3
	70歳代	182	84.1	47.3	11.0	78.6	1.6	1.1	1.1
	80歳以上	118	68.6	39.8	10.2	69.5	1.7	3.4	10.2

職業別でみると、以下のとおりです。

図表 10-30 熱中症の危険度を把握するための情報ツール（職業別）

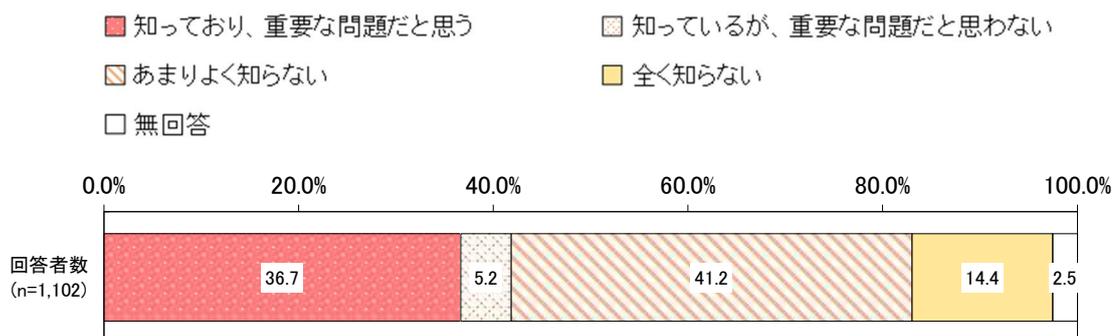
単位：%

区分	有効回答数 (件)	気温	湿度	暑さ指数 WBGT	ニュース、天気予報等の コメント（主に数値以外の情 報）	その他	何も参考にしていない	無回答	
職業別	常時雇用者	372	83.1	43.8	18.3	66.7	2.2	3.0	0.8
	臨時雇用者	189	86.2	48.1	18.0	78.8	0.5	1.6	0.5
	派遣社員	15	80.0	33.3	26.7	80.0	—	6.7	—
	内職	2	100.0	100.0	—	100.0	—	—	—
	自営業者、自由業者	50	72.0	46.0	14.0	64.0	6.0	2.0	4.0
	家族従業者	3	100.0	100.0	—	66.7	—	—	—
	経営者、重役、役員	29	86.2	44.8	13.8	75.9	—	6.9	—
	学生	36	86.1	47.2	16.7	47.2	5.6	2.8	—
	専業主婦・主夫	193	86.0	49.7	16.6	80.3	1.6	—	2.1
	無職	205	76.1	50.7	8.8	69.3	2.0	2.9	4.4

問 53 あなたは、生物多様性についてご存知ですか。また、重要な問題だと思いますか。(1つだけ○印)

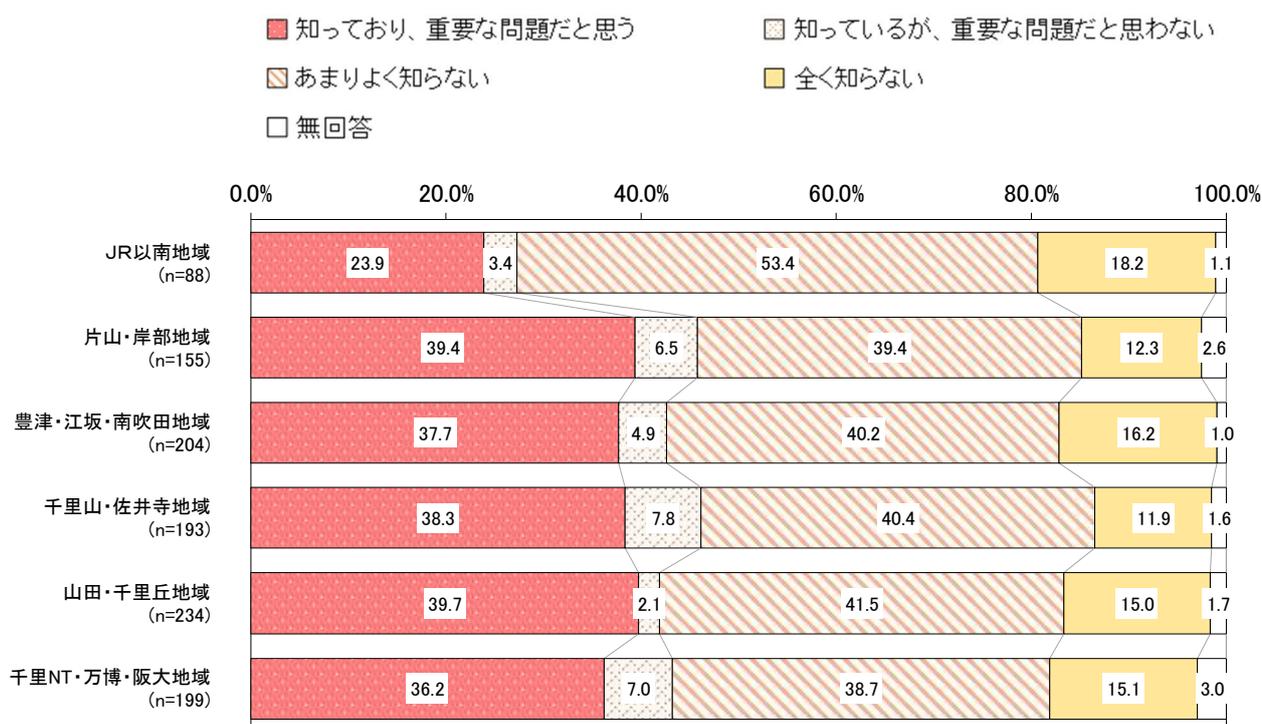
「あまりよく知らない」の割合が41.2%と最も高く、次いで「知っており、重要な問題だと思う」の割合が36.7%、「全く知らない」の割合が14.4%となっています。

図表10-31 生物多様性の認知度、重要度（単純回答）



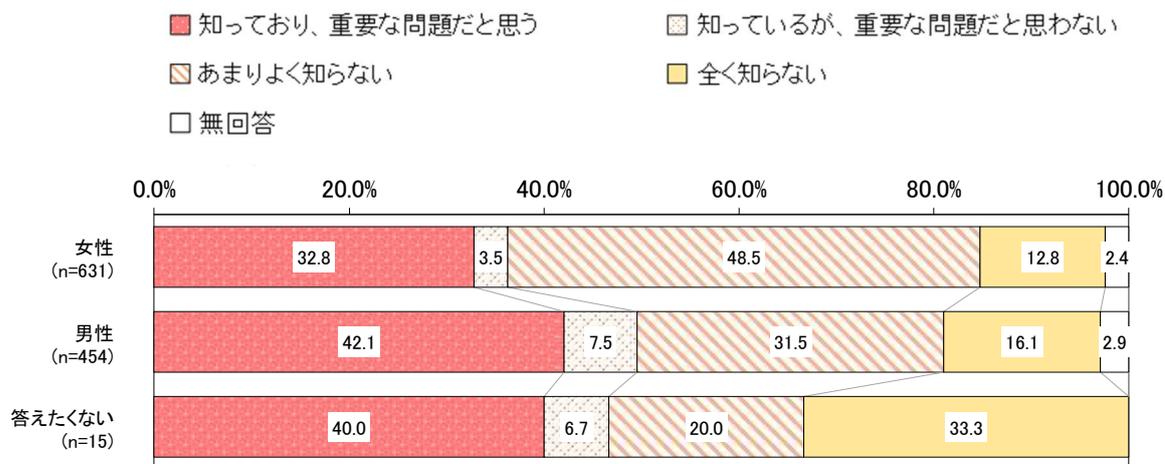
居住地域別で見ると、他に比べ、JR以南地域で「あまりよく知らない」の割合が最も高くなっています。

図表10-32 生物多様性の認知度、重要度（居住地域別）



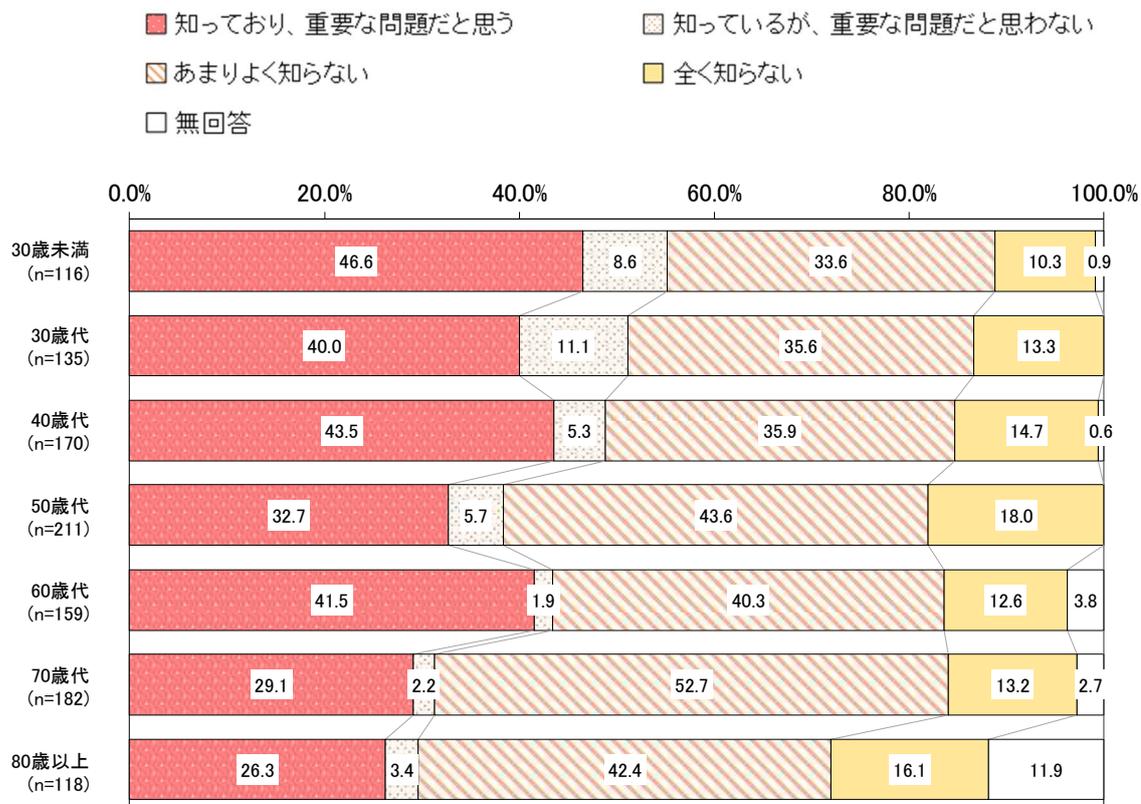
性別でみると、男性より女性の方が「あまりよく知らない」と答えています。

図表10-33 生物多様性の認知度、重要度（性別）



年齢別でみると、他に比べ、70歳代で「あまりよく知らない」の割合が最も高くなっています。

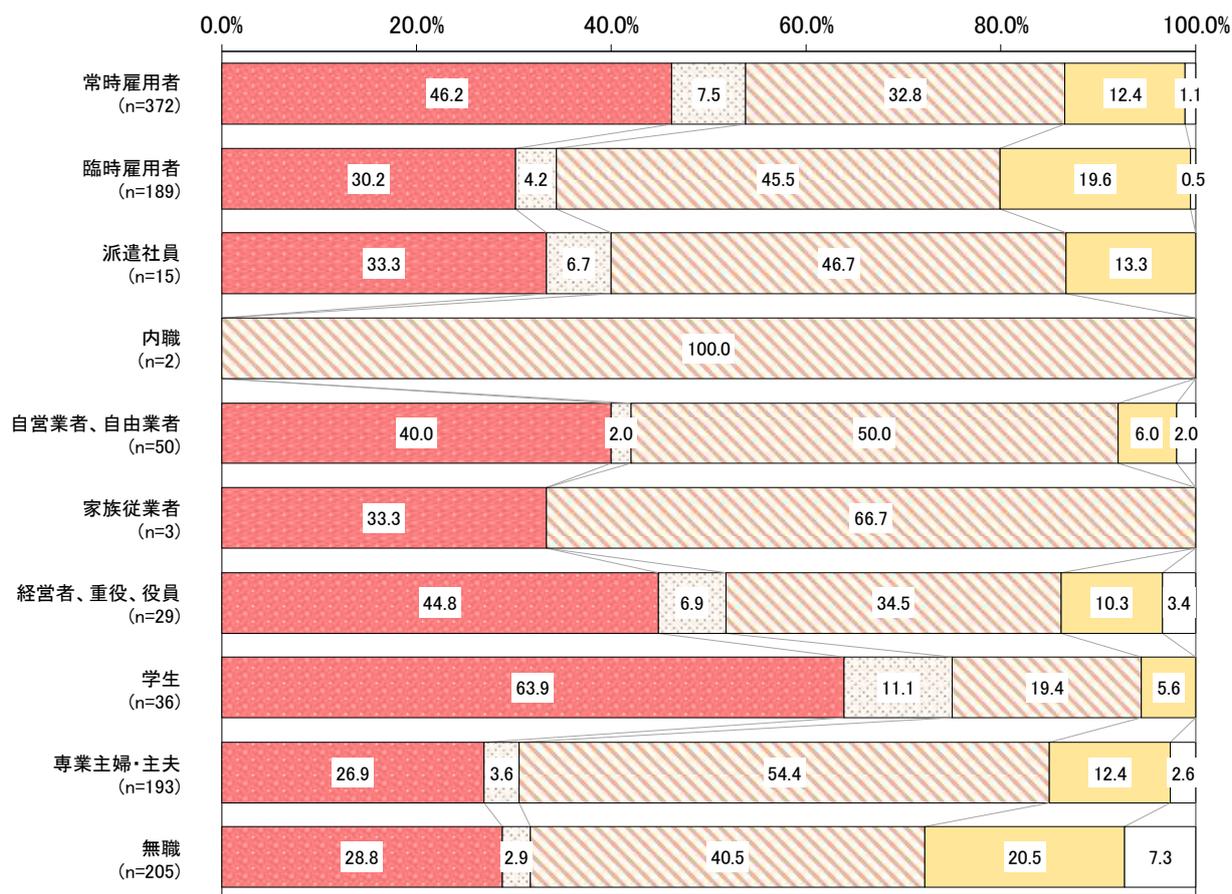
図表10-34 生物多様性の認知度、重要度（年齢別）



職業別でみると、他に比べ、学生で「知っており、重要な問題だと思う」の割合が最も高くなっています。

図表10-35 生物多様性の認知度、重要度（職業別）

- 知っており、重要な問題だと思う
- ▨ 知っているが、重要な問題だと思わない
- ▧ あまりよく知らない
- 全く知らない
- 無回答

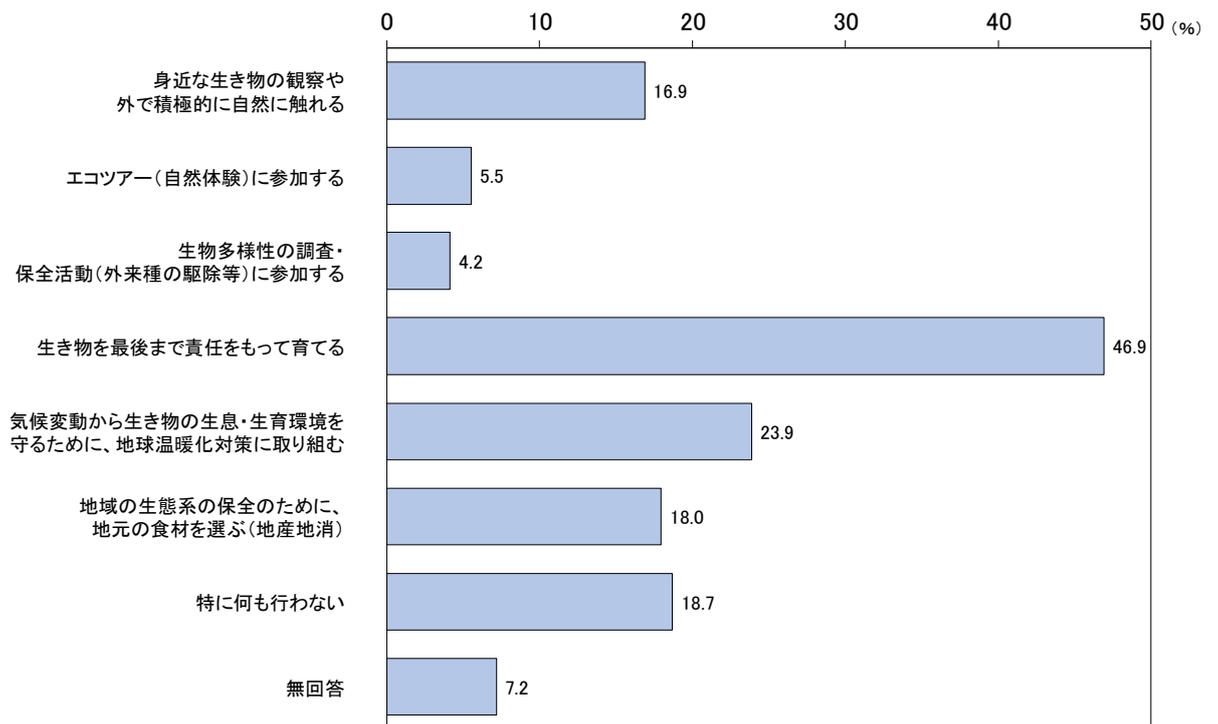


問 54 生物多様性に配慮した行動として、どのようなことであれば実践できると思いますか。(主なもの2つまで)

「生き物を最後まで責任をもって育てる」の割合が 46.9%と最も高く、次いで「気候変動から生き物の生息・生育環境を守るために、地球温暖化対策に取り組む」の割合が 23.9%、「特に何も行わない」の割合が 18.7%となっています。

図表10-36 生物多様性に配慮した行動として実践できるもの（単純回答）

(n=1,102)



居住地域別でみると、大きな差異はみられません。

図表10-37 生物多様性に配慮した行動として実践できるもの（居住地域別）

単位：％

区分		有効回答数（件）	身近な生き物の観察や外で積極的に自然に触れる	エコツアー（自然体験）に参加する	生物多様性の調査・保全活動（外来種の駆除等）に参加する	生き物を最後まで責任をもって育てる	気候変動から生き物の生息・生育環境を守るために、地球温暖化対策に取り組む	地域の生態系の保全のために、地元の食材を選ぶ（地産地消）	特に何も行わない	無回答
居住地域別	JR以南地域	88	11.4	5.7	2.3	46.6	21.6	18.2	26.1	4.5
	片山・岸部地域	155	18.7	9.0	5.2	47.7	23.2	18.1	13.5	7.7
	豊津・江坂・南吹田地域	204	16.7	3.4	4.4	49.5	23.0	16.2	23.0	3.9
	千里山・佐井寺地域	193	16.6	7.8	2.1	46.1	21.8	20.7	17.1	7.8
	山田・千里丘地域	234	17.5	3.0	5.1	47.0	29.9	20.1	16.7	6.4
	千里NT・万博・阪大地域	199	18.6	6.5	5.0	45.7	21.6	16.6	19.6	7.0

性別でみると、男性より女性の方が「生き物を最後まで責任をもって育てる」と答えています。

図表 10-38 生物多様性に配慮した行動として実践できるもの（性別）

単位：％

区分		有効回答数（件）	身近な生き物の観察や外で積極的に自然に触れる	エコツアー（自然体験）に参加する	生物多様性の調査・保全活動（外来種の駆除等）に参加する	生き物を最後まで責任をもって育てる	気候変動から生き物の生息・生育環境を守るために、地球温暖化対策に取り組む	地域の生態系の保全のために、地元の食材を選ぶ（地産地消）	特に何も行わない	無回答
性別	女性	631	16.2	4.1	3.0	49.8	23.5	20.1	15.1	8.2
	男性	454	18.1	7.5	5.7	43.2	23.8	15.0	23.3	5.9
	答えたくない	15	13.3	6.7	6.7	33.3	40.0	20.0	33.3	—

年齢別でみると、大きな差異はみられません。

図表 10-39 生物多様性に配慮した行動として実践できるもの（年齢別）

単位：％

区分	有効回答数（件）	身近な生き物の観察や外で積極的に自然に触れる	エコツアー（自然体験）に参加する	生物多様性の調査・保全活動（外来種の駆除等）に参加する	生き物を最後まで責任をもって育てる	気候変動から生き物の生息・生育環境を守るために、地球温暖化対策に取り組む	地域の生態系の保全のために、地元の食材を選ぶ（地産地消）	特に何も行わない	無回答	
年齢別	30歳未満	116	20.7	4.3	7.8	50.9	20.7	14.7	21.6	2.6
	30歳代	135	29.6	8.1	3.0	49.6	23.7	18.5	18.5	3.0
	40歳代	170	18.2	5.9	5.9	53.5	23.5	20.0	14.7	3.5
	50歳代	211	12.8	5.2	3.8	43.6	27.0	17.5	25.6	3.3
	60歳代	159	13.2	8.8	4.4	53.5	26.4	19.5	11.9	6.3
	70歳代	182	13.2	3.3	3.3	45.1	22.0	21.4	15.4	12.6
	80歳以上	118	15.3	3.4	1.7	30.5	22.9	10.2	23.7	20.3

職業別でみると、どの職業においても「生き物を最後まで責任をもって育てる」の割合が高くなっています。

図表 10-40 生物多様性に配慮した行動として実践できるもの（職業別）

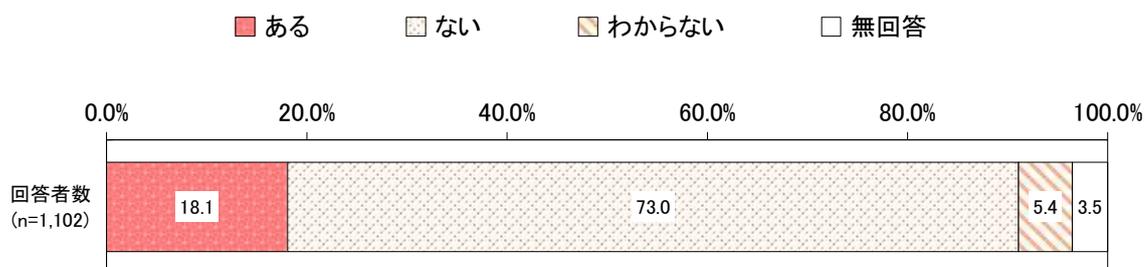
単位：％

区分	有効回答数（件）	身近な生き物の観察や外で積極的に自然に触れる	エコツアー（自然体験）に参加する	生物多様性の調査・保全活動（外来種の駆除等）に参加する	生き物を最後まで責任をもって育てる	気候変動から生き物の生息・生育環境を守るために、地球温暖化対策に取り組む	地域の生態系の保全のために、地元の食材を選ぶ（地産地消）	特に何も行わない	無回答	
職業別	常時雇用者	372	20.2	7.5	5.4	47.8	25.0	18.5	20.7	2.2
	臨時雇用者	189	13.2	4.8	2.6	55.0	25.4	16.9	15.9	6.3
	派遣社員	15	6.7	6.7	—	60.0	26.7	13.3	33.3	—
	内職	2	—	—	—	50.0	50.0	—	50.0	—
	自営業者、自由業者	50	22.0	4.0	4.0	52.0	28.0	10.0	20.0	6.0
	家族従業者	3	33.3	—	33.3	33.3	—	—	—	33.3
	経営者、重役、役員	29	17.2	10.3	3.4	41.4	24.1	34.5	10.3	6.9
	学生	36	19.4	5.6	19.4	47.2	22.2	11.1	19.4	2.8
	専業主婦・主夫	193	15.0	2.1	2.1	50.8	23.8	23.8	9.8	11.4
	無職	205	15.1	5.9	2.9	33.7	20.0	14.1	25.4	13.7

問 55 あなたは、地域の美化や緑化、環境イベントなどのボランティア活動に参加したことはありますか。(1つだけ○印)

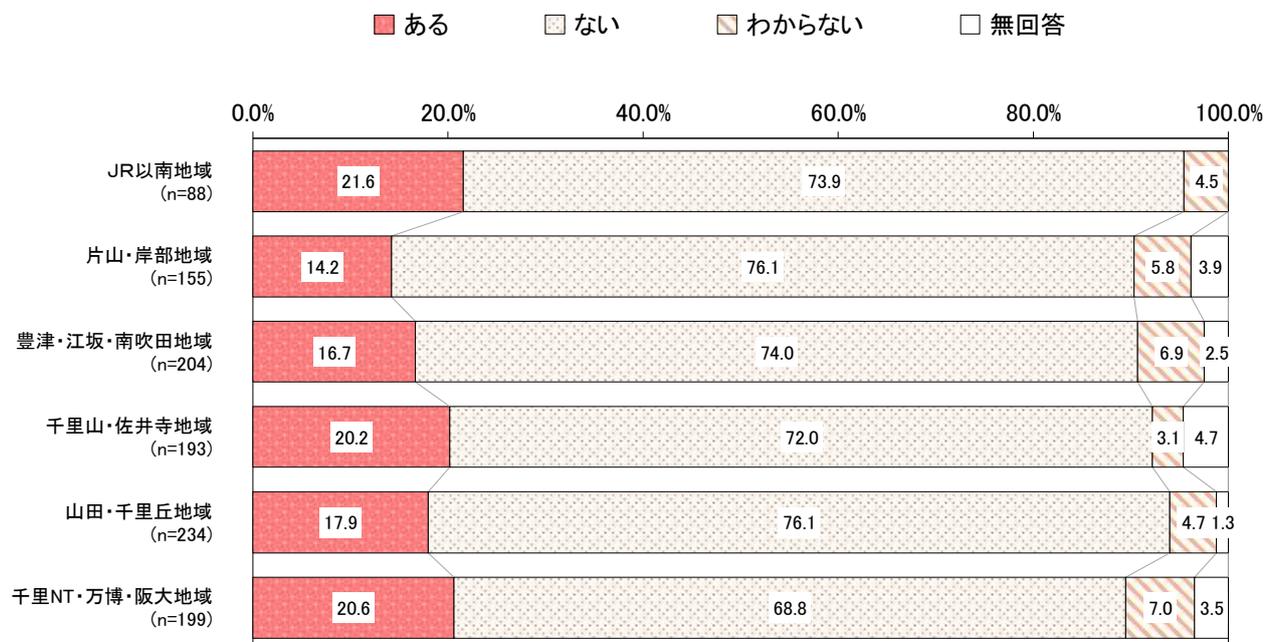
「ある」が18.1%、「ない」が73.0%でした。

図表10-41 ボランティア活動への参加経験 (単純回答)



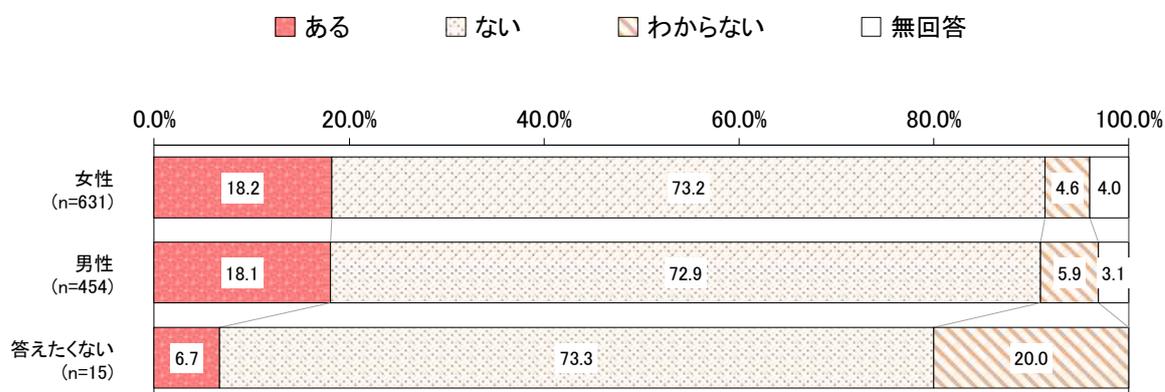
居住地域別で見ると、他に比べ、JR以南地域で「ある」の割合が最も高くなっています。

図表 10-42 ボランティア活動への参加経験 (居住地域別)



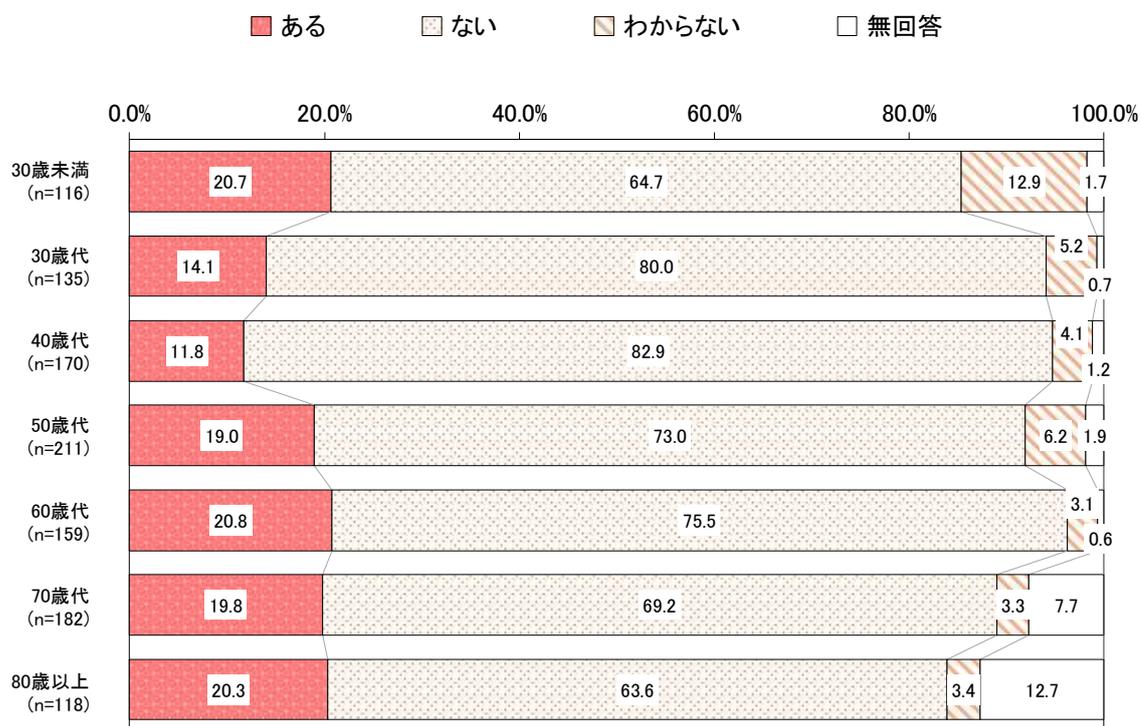
性別でみると、大きな差異はみられません。

図表10-43 ボランティア活動への参加経験（性別）



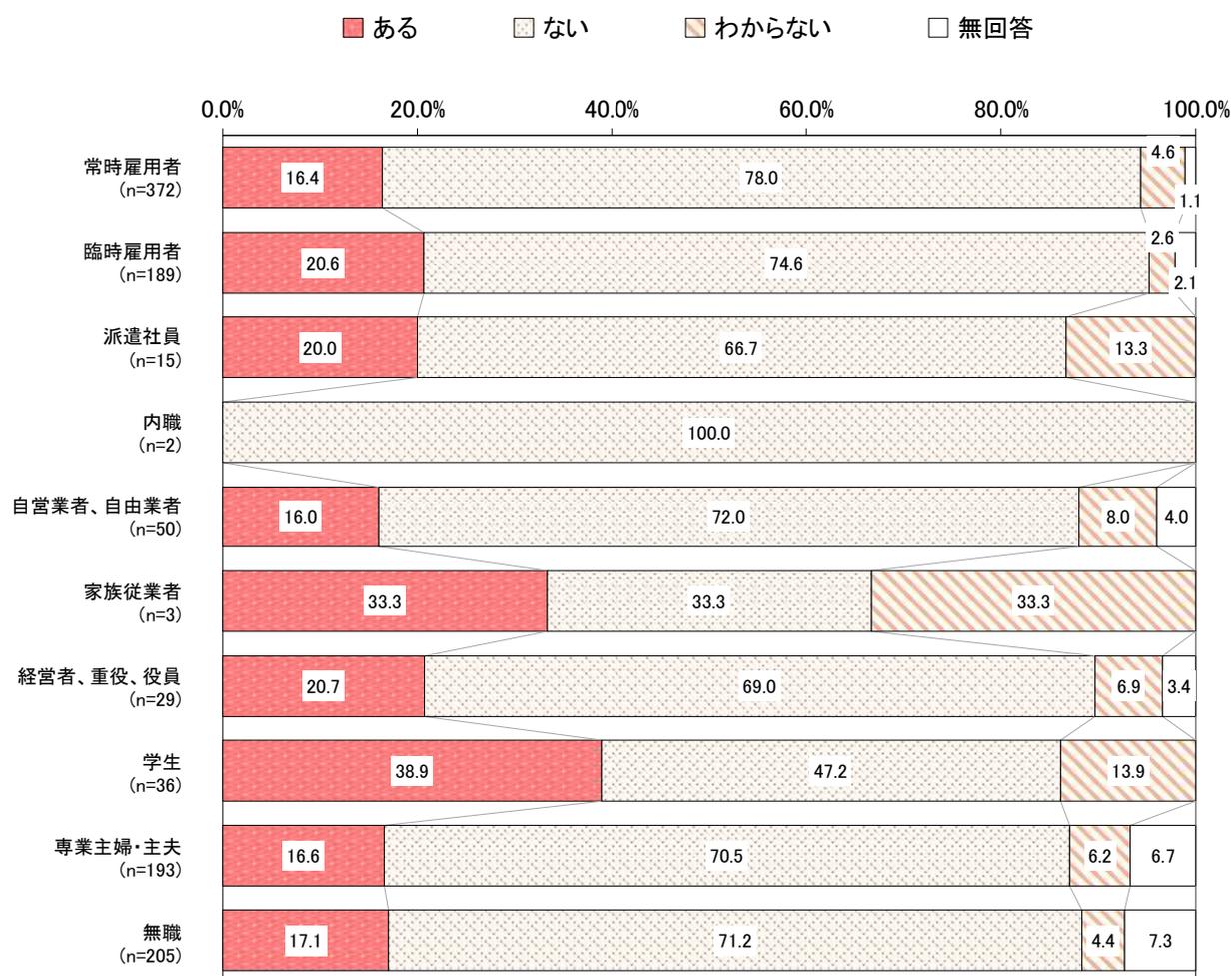
年齢別でみると、他に比べ、40歳代で「ない」の割合が最も高くなっています。

図表10-44 ボランティア活動への参加経験（年齢別）



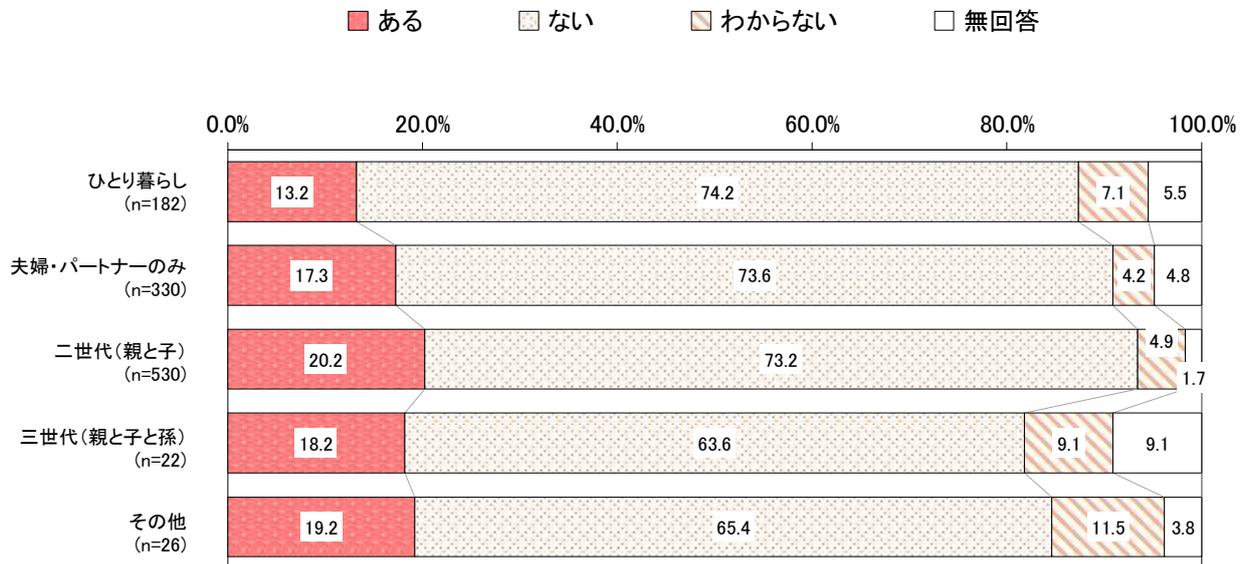
職業別でみると、他に比べ、学生で「ある」の割合が最も高くなっています。

図表 10-45 ボランティア活動への参加経験（職業別）



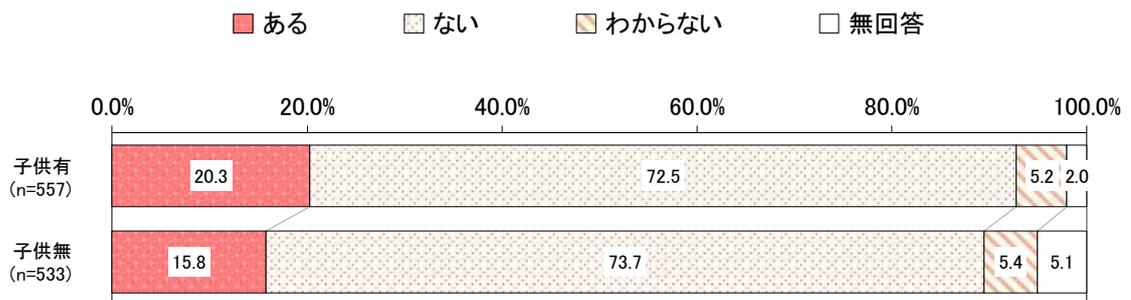
家族構成別でみると、他に比べ、二世世代（親と子）で「ある」の割合が最も高くなっています。

図表 10-46 ボランティア活動への参加経験（家族構成別）



子供の有無別でみると、子供無の方に比べ、子供有の方で「ある」の割合が高くなっています。

図表 10-47 ボランティア活動への参加経験（子供の有無別）

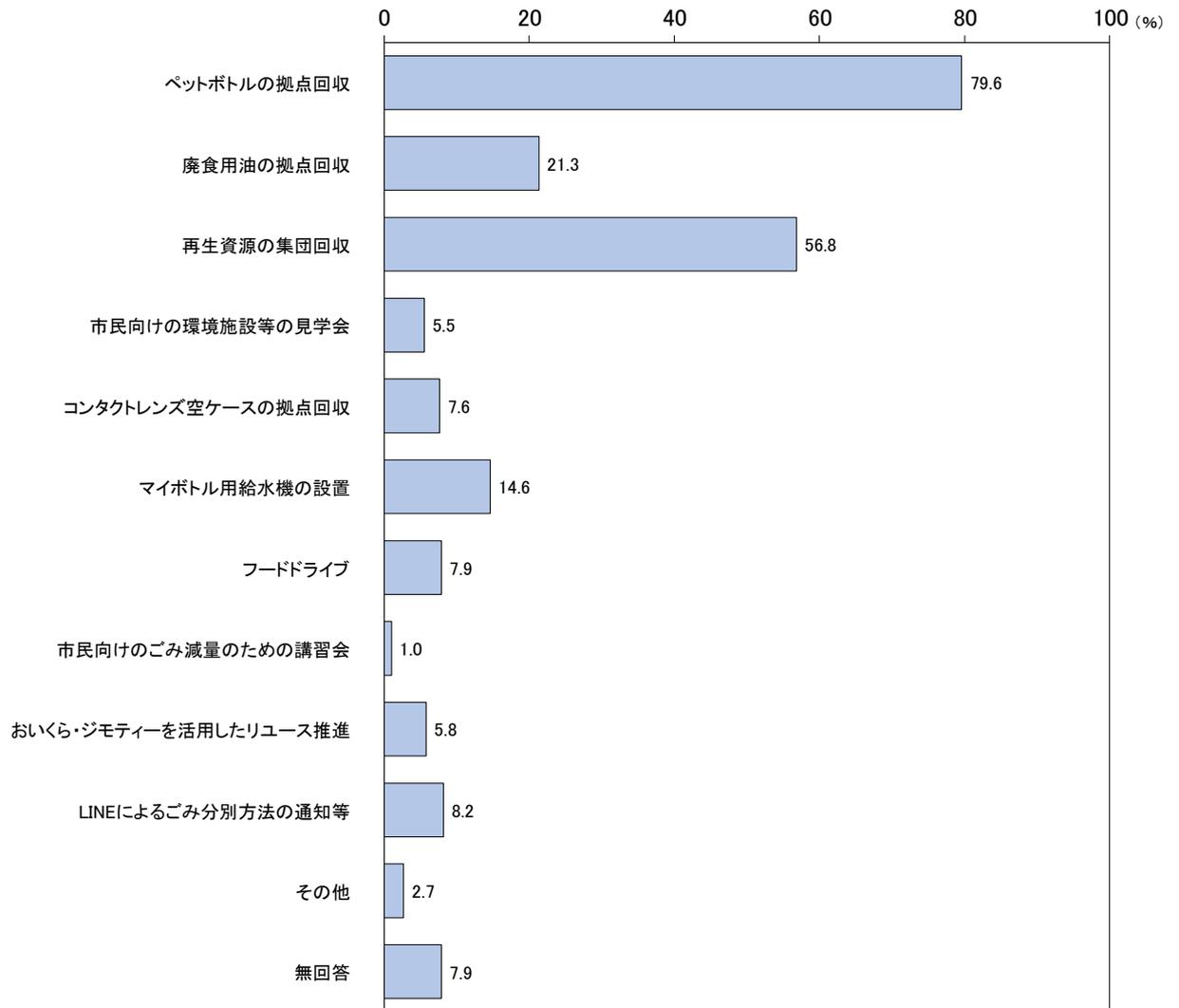


問 56 吹田市が行っている、ごみ減量に向けた主な取組のうち、あなたが知っている取組はありますか。(いくつでも)

「ペットボトルの拠点回収」の割合が79.6%と最も高く、次いで「再生資源の集団回収」の割合が56.8%、「廃食用油の拠点回収」の割合が21.3%となっています。

図表10-48 ごみ減量に向けた取組の認知度 (単純回答)

(n=1,102)



居住地域別で見ると、どの地域においても「ペットボトルの拠点回収」の割合が高くなっています。

図表10-49 ごみ減量に向けた取組の認知度（居住地域別）

単位：%

区分	有効回答数（件）	ペットボトルの拠点回収	廃食用油の拠点回収	再生資源の集団回収	市民向けの環境施設等の見学会	コンタクトレンズ空きケースの拠点回収	マイボトル用給水機の設置	
居住地域別	JR以南地域	88	83.0	13.6	60.2	8.0	6.8	13.6
	片山・岸部地域	155	82.6	20.6	58.1	4.5	7.7	9.0
	豊津・江坂・南吹田地域	204	74.0	19.1	45.6	4.4	7.8	10.8
	千里山・佐井寺地域	193	81.3	30.1	57.5	6.2	6.7	17.1
	山田・千里丘地域	234	80.8	22.6	63.2	6.8	9.0	15.4
	千里NT・万博・阪大地域	199	80.9	18.1	58.8	5.0	7.0	21.1

区分	有効回答数（件）	フードドライブ	市民向けのごみ減量のための講習会	おいくら・ジモティーを活用したリユース推進	LINEによるごみ分別方法の通知等	その他	無回答	
居住地域別	JR以南地域	88	3.4	2.3	4.5	5.7	3.4	6.8
	片山・岸部地域	155	9.0	1.3	3.9	11.0	1.9	5.8
	豊津・江坂・南吹田地域	204	8.3	—	7.8	8.3	5.4	13.2
	千里山・佐井寺地域	193	7.8	1.0	8.8	10.9	2.1	6.7
	山田・千里丘地域	234	9.8	1.3	4.7	7.7	0.9	6.4
	千里NT・万博・阪大地域	199	7.0	0.5	5.0	5.5	3.0	5.0

性別でみると、男性より女性の方が個別の取組についての認知度が高くなっています。

図表 10-50 ごみ減量に向けた取組の認知度（性別）

単位：％

区分		有効回答数（件）	ペットボトルの拠点回収	廃食用油の拠点回収	再生資源の集団回収	市民向けの環境施設等の見学会	コンタクトレンズ空ケースの拠点回収	マイボトル用給水機の設置
性別	女性	631	81.9	24.2	60.7	5.7	10.1	17.9
	男性	454	76.0	16.3	51.3	4.8	4.4	9.9
	答えたくない	15	86.7	53.3	66.7	13.3	—	20.0

区分		有効回答数（件）	フードドライブ	市民向けのごみ減量のための講習会	おいくら・ジモティーを活用したリユース推進	LINEによるごみ分別方法の通知等	その他	無回答
性別	女性	631	10.1	1.1	7.9	8.6	1.9	7.4
	男性	454	4.4	0.9	2.4	7.3	3.7	8.6
	答えたくない	15	20.0	—	20.0	20.0	6.7	6.7

年齢別でみると、どの世代においても「ペットボトルの拠点回収」の割合が高くなっています。

図表 10-51 ごみ減量に向けた取組の認知度（年齢別）

単位：％

区分		有効回答数（件）	ペットボトルの拠点回収	廃食用油の拠点回収	再生資源の集団回収	市民向けの環境施設等の見学会	コンタクトレンズ空ケースの拠点回収	マイボトル用給水機の設置
年齢別	30歳未満	116	68.1	10.3	32.8	2.6	7.8	12.9
	30歳代	135	75.6	18.5	40.0	2.2	8.9	17.8
	40歳代	170	81.8	23.5	55.9	2.9	11.2	17.6
	50歳代	211	83.4	25.1	55.9	4.3	12.3	17.1
	60歳代	159	82.4	19.5	66.7	7.5	6.9	15.7
	70歳代	182	81.9	25.8	72.5	8.2	2.7	10.4
	80歳以上	118	77.1	22.0	66.1	11.9	0.8	10.2

区分		有効回答数（件）	フードドライブ	市民向けのごみ減量のための講習会	おいくら・ジモティーを活用したリユース推進	LINEによるごみ分別方法の通知等	その他	無回答
年齢別	30歳未満	116	4.3	—	6.0	5.2	5.2	19.0
	30歳代	135	11.1	1.5	12.6	13.3	1.5	7.4
	40歳代	170	13.5	—	7.6	7.6	5.3	4.1
	50歳代	211	10.4	0.9	5.2	10.0	3.8	5.7
	60歳代	159	10.1	1.3	5.0	7.5	1.3	6.3
	70歳代	182	3.3	1.6	3.3	8.8	0.5	4.9
	80歳以上	118	—	1.7	0.8	2.5	1.7	13.6

家族構成別で見ると、どの世帯においても「ペットボトルの拠点回収」の割合が高くなっています。

図表 10-52 ごみ減量に向けた取組の認知度（家族構成別）

単位：%

区分		有効回答数（件）	ペットボトルの拠点回収	廃食用油の拠点回収	再生資源の集団回収	市民向けの環境施設等の見学会	コンタクトレンズ空ケースの拠点回収	マイボトル用給水機の設置
家族構成別	ひとり暮らし	182	79.1	22.0	51.6	4.4	6.0	11.5
	夫婦・パートナーのみ	330	77.9	18.8	59.4	7.0	5.2	12.1
	二世帯（親と子）	530	80.6	22.8	56.6	5.3	9.8	16.4
	三世帯（親と子と孫）	22	72.7	22.7	59.1	4.5	9.1	31.8
	その他	26	84.6	15.4	65.4	3.8	3.8	19.2

区分		有効回答数（件）	フードドライブ	市民向けのごみ減量のための講習会	おいくら・ジモティーを活用したリユース推進	LINEによるごみ分別方法の通知等	その他	無回答
家族構成別	ひとり暮らし	182	4.4	—	4.4	6.0	1.6	11.5
	夫婦・パートナーのみ	330	7.6	2.1	4.2	9.4	3.9	8.2
	二世帯（親と子）	530	9.8	0.8	7.7	8.7	2.5	6.4
	三世帯（親と子と孫）	22	9.1	—	—	4.5	—	13.6
	その他	26	—	—	3.8	3.8	3.8	3.8

子供の有無別で見ると、子供無の方に比べ、子供有の方で「ペットボトルの拠点回収」の割合が高くなっています。

図表 10-53 ごみ減量に向けた取組の認知度（子供の有無別）

単位：％

区分		有効回答数（件）	ペットボトルの拠点回収	廃食用油の拠点回収	再生資源の集団回収	市民向けの環境施設等の見学会	コンタクトレンズ空ケースの拠点回収	マイボトル用給水機の設置
子	子供有	557	80.4	22.8	56.7	5.2	9.7	17.2
	子供無	533	78.4	19.7	57.0	6.0	5.4	12.0

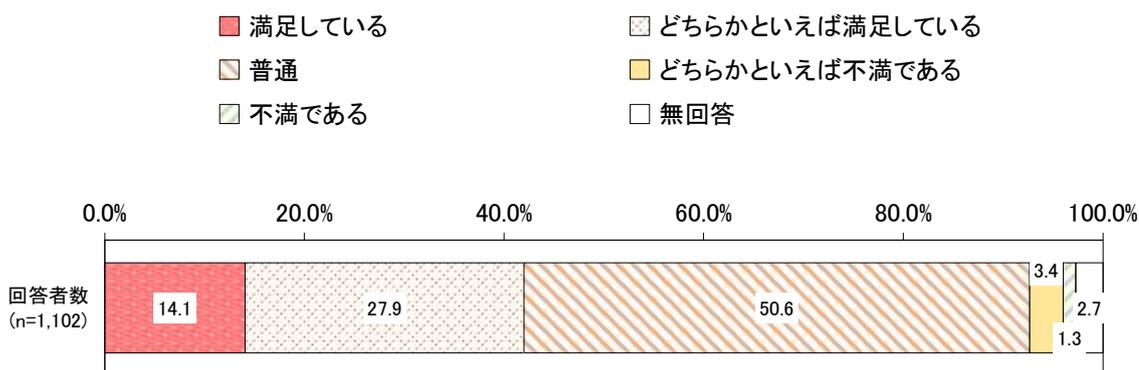
区分		有効回答数（件）	フードドライブ	市民向けのごみ減量のための講習会	おいくら・ジモティーを活用したリユース推進	LINEによるごみ分別方法の通知等	その他	無回答
子	子供有	557	9.7	0.7	7.4	8.4	2.3	6.6
	子供無	533	6.2	1.3	4.3	8.1	3.2	9.2

問 57 吹田市が行っている、ごみの発生抑制・排出抑制やリサイクルなどのごみ減量の取組についてお伺いします。(1つだけ○印)

(1) 取組への満足度を教えてください。

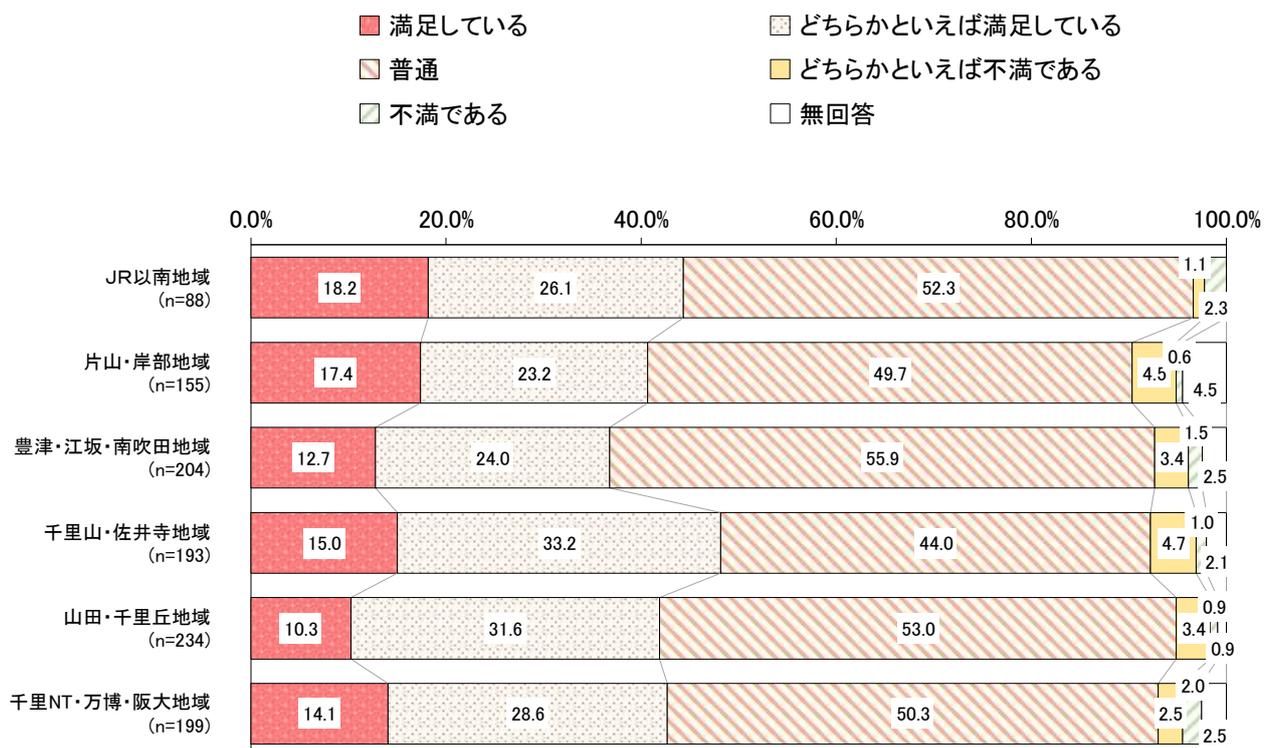
「普通」が50.6%と最も高く、次いで「満足している」と「どちらかといえば満足している」をあわせた“満足”の割合が42.0%、「どちらかといえば不満である」と「不満である」をあわせた“不満”の割合が4.7%となっています。

図表10-54 ごみ減量に向けた取組の満足度（単純回答）



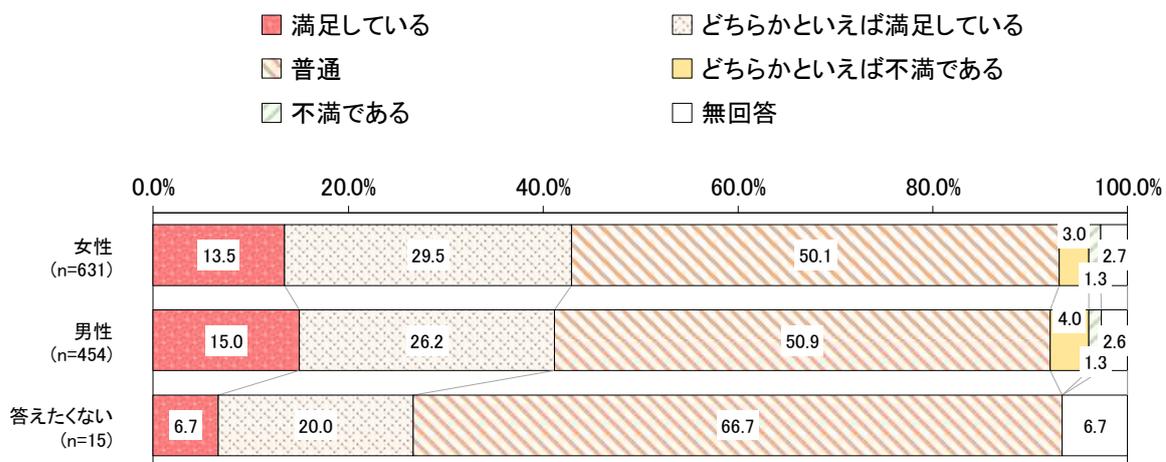
居住地域別で見ると、他に比べ、千里山・佐井寺地域で「満足している」と「どちらかといえば満足している」をあわせた“満足”の割合が最も高くなっています。

図表10-55 ごみ減量に向けた取組の満足度（居住地域別）



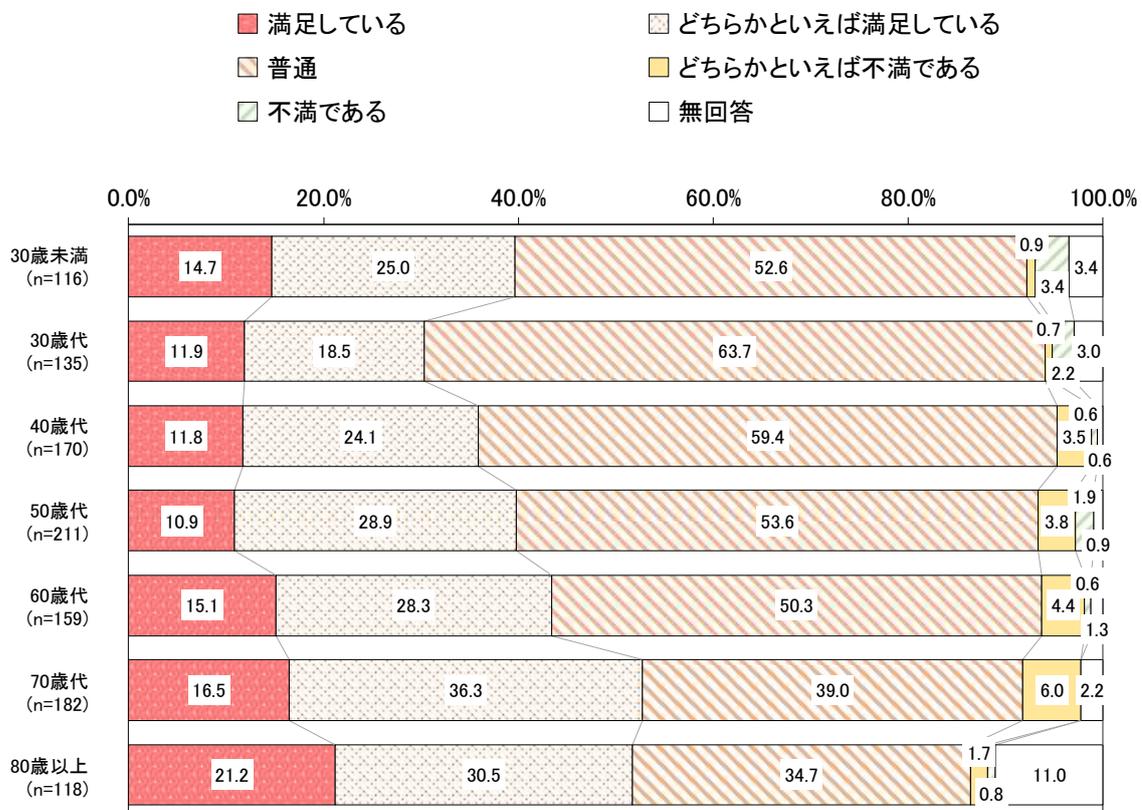
性別でみると、大きな差異はみられません。

図表10-56 ごみ減量に向けた取組の満足度（性別）



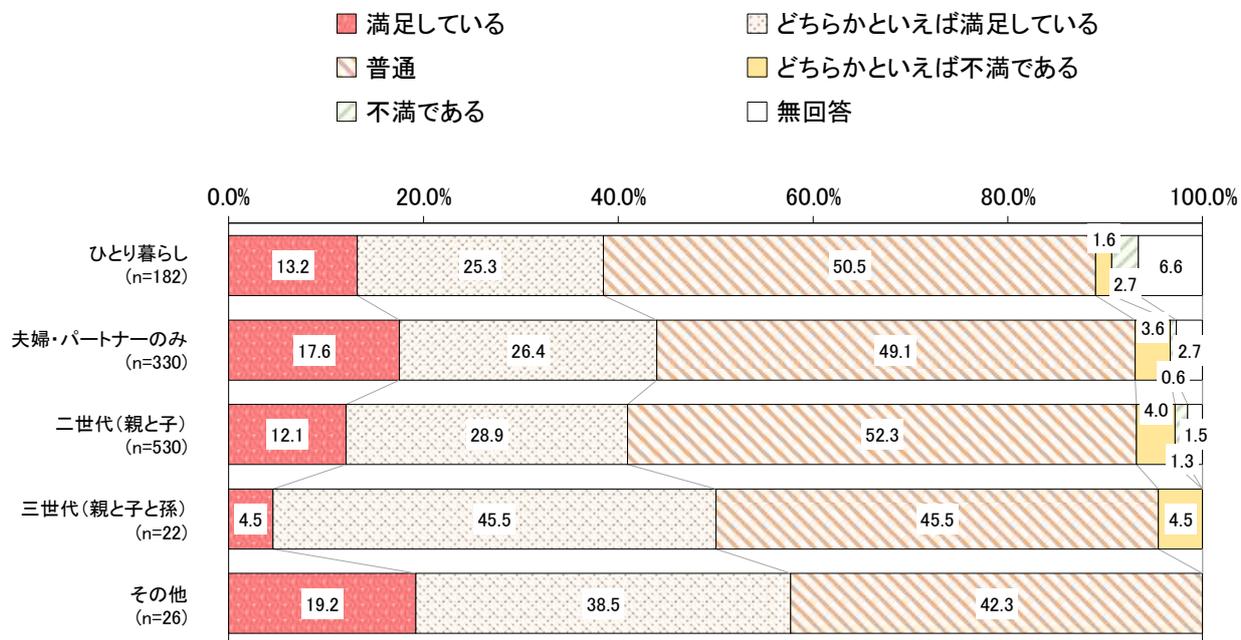
年齢別でみると、他に比べ、70歳代で「満足している」と「どちらかといえば満足している」をあわせた“満足”の割合が最も高くなっています。

図表10-57 ごみ減量に向けた取組の満足度（年齢別）



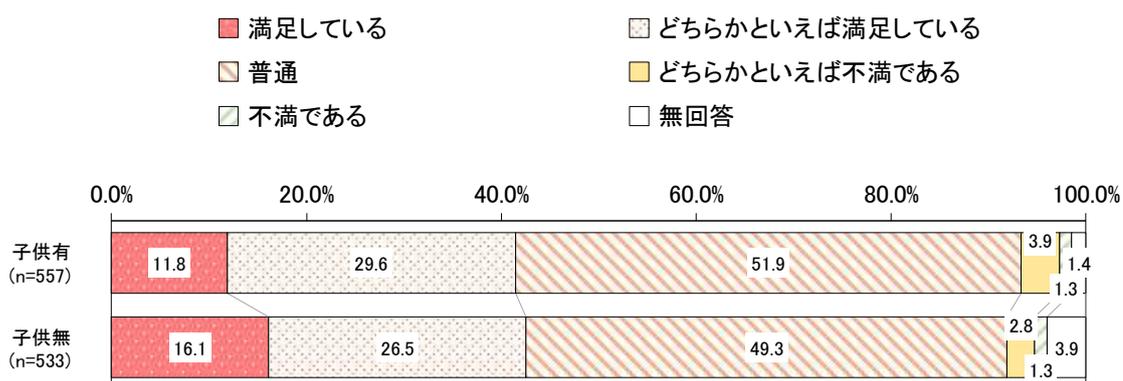
家族構成別でみると、他に比べ、三世代（親と子と孫）で「満足している」と「どちらかといえど満足している」を合わせた“満足”の割合が高くなっています。

図表 10-58 ごみ減量に向けた取組の満足度（家族構成別）



子供の有無別でみると、大きな差異はみられません。

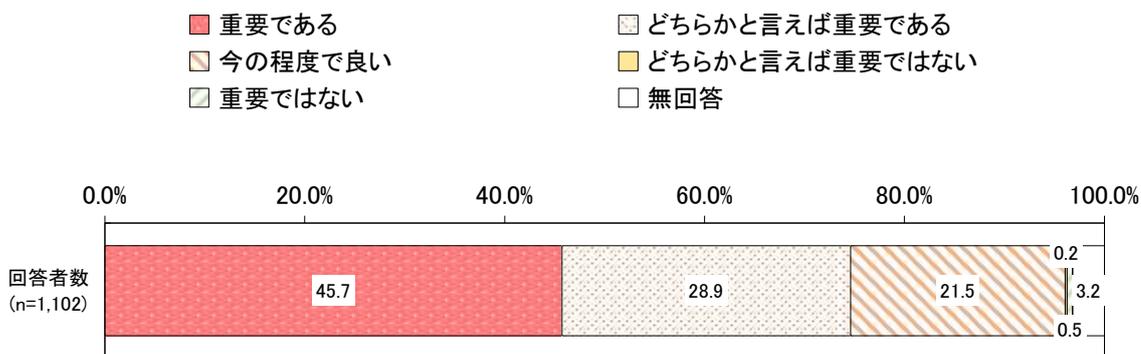
図表 10-59 ごみ減量に向けた取組の満足度（子供の有無別）



(2) 取組が重要だと思う程度を教えてください。

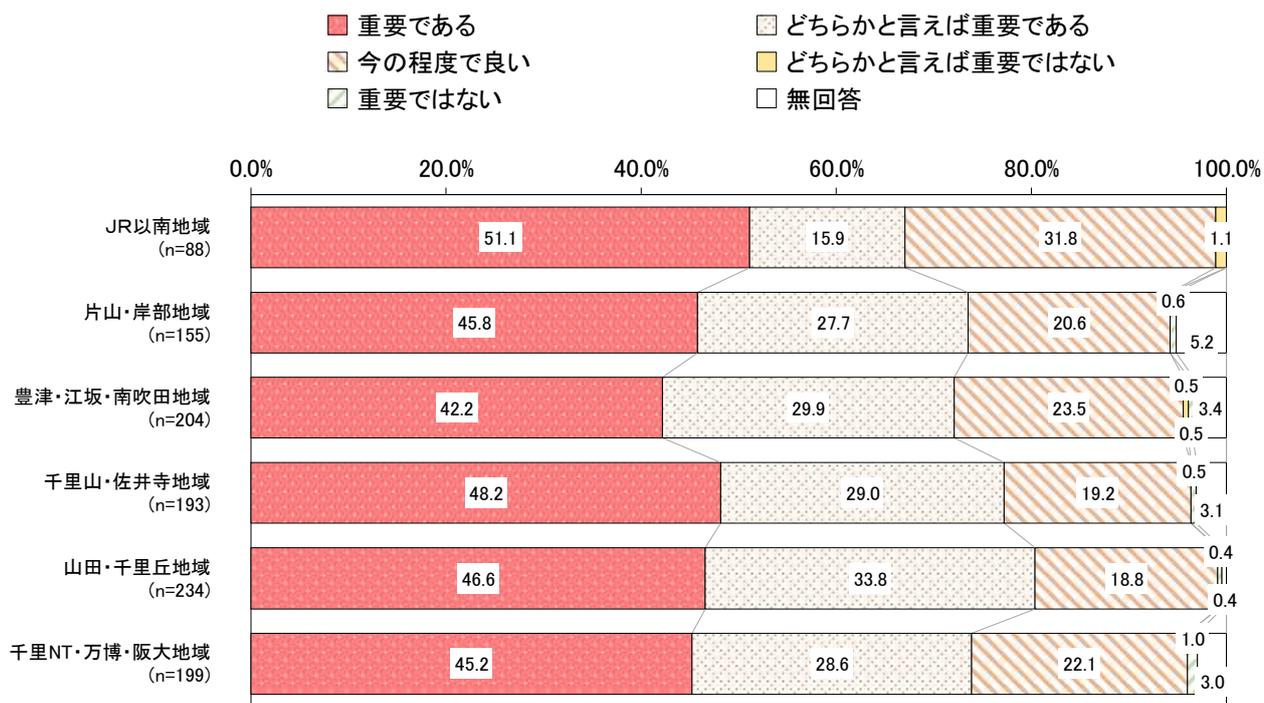
「重要である」と「どちらかと言えば重要である」をあわせた“重要”の割合が74.6%と最も高く、次いで「今の程度で良い」が21.5%、「どちらかと言えば重要ではない」と「重要ではない」をあわせた“重要ではない”の割合が0.7%となっています。

図表10-60 ごみ減量に向けた取組の重要度（単純回答）



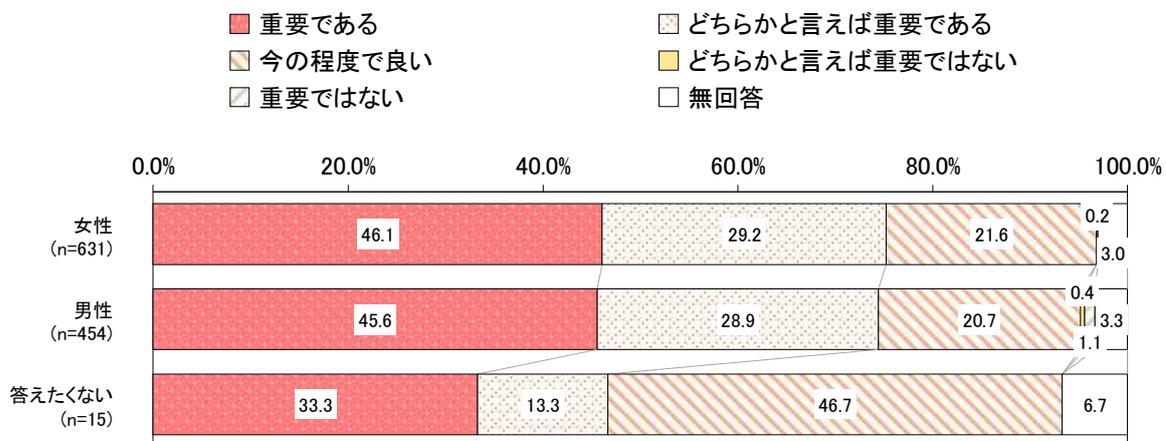
居住地域別で見ると、他に比べ、山田・千里丘地域で「重要である」と「どちらかと言えば重要である」をあわせた“重要”の割合が最も高くなっています。

図表10-61 ごみ減量に向けた取組の重要度（居住地域別）



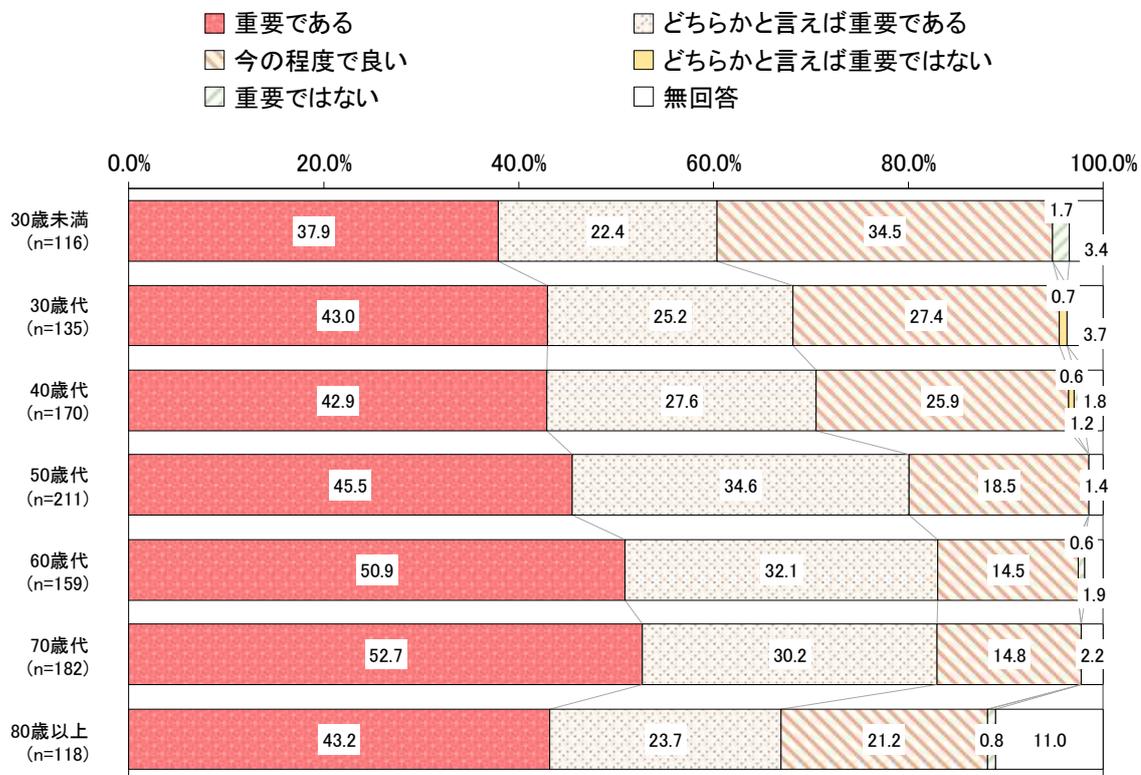
性別でみると、大きな差異はみられません。

図表10-62 ごみ減量に向けた取組の重要度（性別）



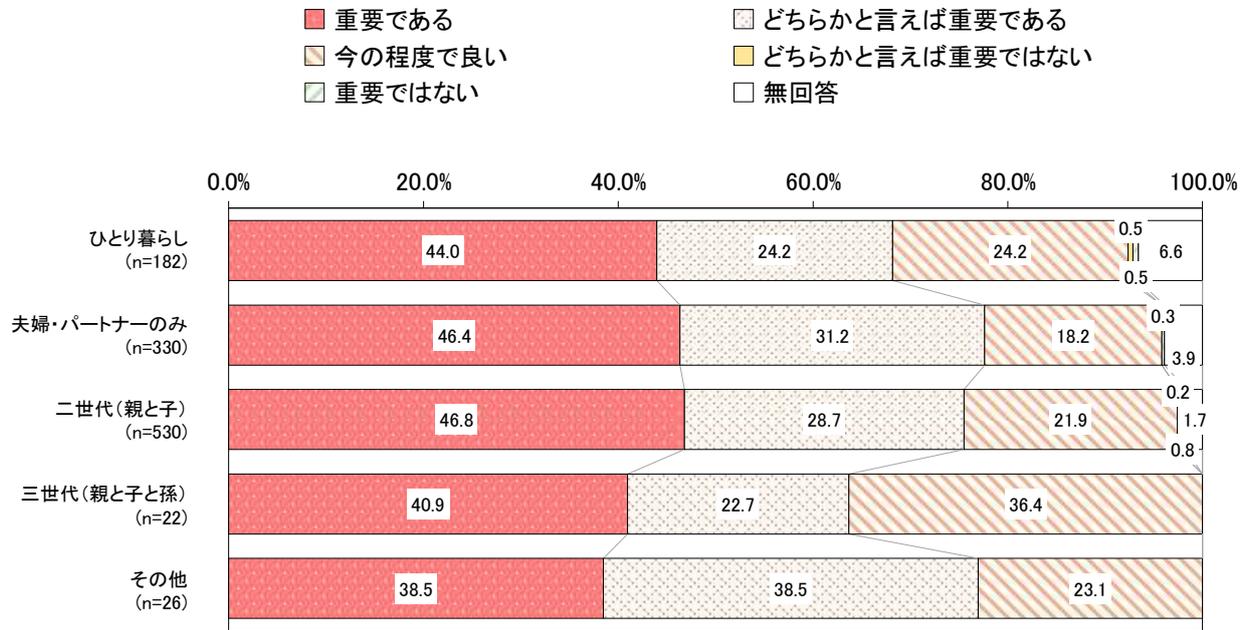
年齢別でみると、他に比べ、60歳代で「重要である」と「どちらかと言えば重要である」をあわせた“重要”の割合が最も高くなっています。

図表10-63 ごみ減量に向けた取組の重要度（年齢別）



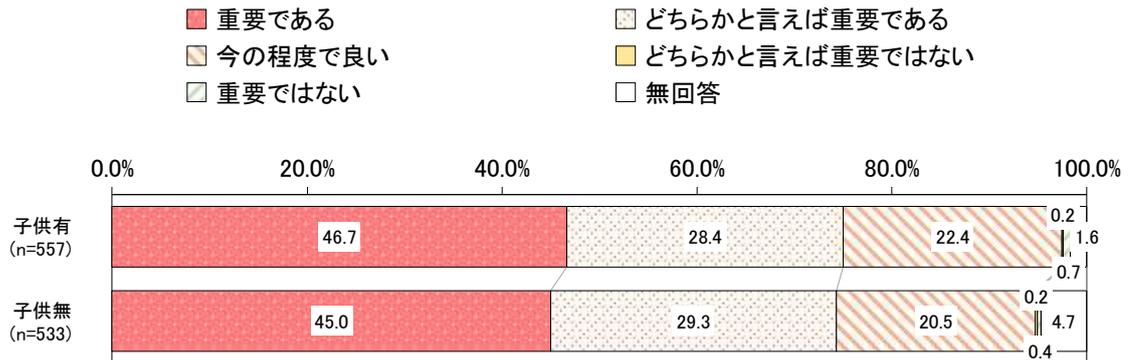
家族構成別でみると、他に比べ、夫婦・パートナーのみで「重要である」と「どちらかと言えば重要である」を合わせた“重要”の割合が最も高くなっています。

図表 10-64 ごみ減量に向けた取組の重要度（家族構成別）



子供の有無別でみると、大きな差異はみられません。

図表 10-65 ごみ減量に向けた取組の重要度（子供の有無別）

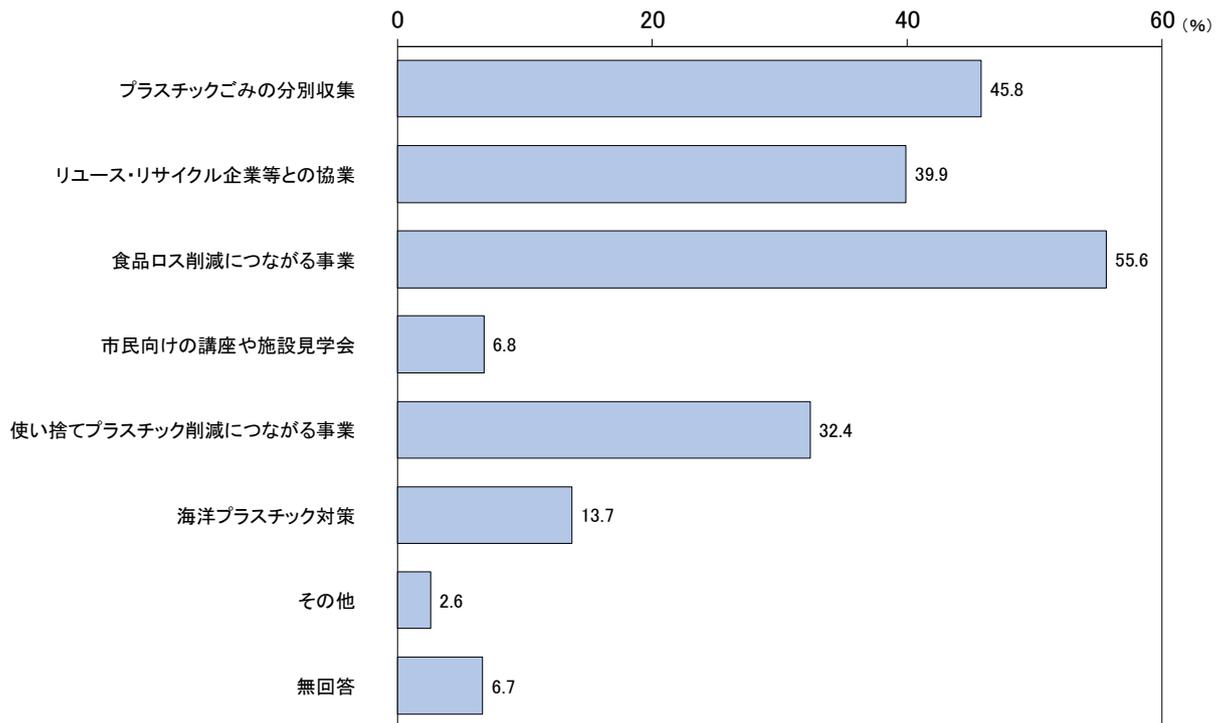


問 58 今後、吹田市が注力すべきと考える分野（ごみ減量につながる）について、教えてください。（3つまで）

「食品ロス削減につながる事業」の割合が55.6%と最も高く、次いで「プラスチックごみの分別収集」の割合が45.8%、「リユース・リサイクル企業等との協業」の割合が39.9%となっています。

図表10-66 吹田市が注力すべき分野（ごみ減量につながる）について（単純回答）

(n=1,102)



居住地域別で見ると、他に比べ、豊津・江坂・南吹田地域で「食品ロス削減につながる事業」の割合が最も高くなっています。

図表10-67 吹田市が注力すべき分野（ごみ減量につながる）について（居住地域別）

単位：％

区分	有効回答数（件）	プラスチックごみの分別収集	リユース・リサイクル企業等との協業	食品ロス削減につながる事業	市民向けの講座や施設見学会	使い捨てプラスチック削減につながる事業	海洋プラスチック対策	その他	無回答	
居住地域別	JR以南地域	88	50.0	36.4	53.4	4.5	36.4	13.6	2.3	6.8
	片山・岸部地域	155	44.5	35.5	56.8	7.1	29.0	12.3	2.6	7.7
	豊津・江坂・南吹田地域	204	43.1	39.2	58.8	4.4	29.4	14.7	2.9	5.9
	千里山・佐井寺地域	193	40.9	45.1	58.5	6.2	30.6	16.1	3.6	6.7
	山田・千里丘地域	234	45.7	41.9	54.3	10.3	35.0	16.7	1.3	6.0
	千里NT・万博・阪大地域	199	53.3	40.7	52.8	7.0	35.2	9.0	3.0	4.5

性別で見ると、男性より女性の方が「食品ロス削減につながる事業」と答えています。

図表 10-68 吹田市が注力すべき分野（ごみ減量につながる）について（性別）

単位：％

区分	有効回答数（件）	プラスチックごみの分別収集	リユース・リサイクル企業等との協業	食品ロス削減につながる事業	市民向けの講座や施設見学会	使い捨てプラスチック削減につながる事業	海洋プラスチック対策	その他	無回答	
性別	女性	631	44.4	37.6	57.4	7.1	32.8	13.8	2.2	6.7
	男性	454	48.2	43.2	53.1	6.6	31.3	13.7	3.3	6.8
	答えたくない	15	26.7	46.7	60.0	—	46.7	13.3	—	6.7

年齢別でみると、他に比べ、60歳代で「食品ロス削減につながる事業」の割合が最も高くなっています。

図表 10-69 吹田市が注力すべき分野（ごみ減量につながる）について（年齢別）

単位：%

区分		有効回答数 (件)	プラスチックごみの分別 収集	リユース・リサイクル企業 等との協業	食品ロス削減につながる 事業	市民向けの講座や施設見 学会	使い捨てプラスチック削 減につながる事業	海洋プラスチック対策	その他	無回答
年齢別	30歳未満	116	38.8	29.3	54.3	5.2	24.1	17.2	2.6	9.5
	30歳代	135	34.8	43.0	51.9	6.7	31.9	16.3	3.7	8.9
	40歳代	170	32.9	48.8	55.9	8.2	34.7	10.0	6.5	4.1
	50歳代	211	43.6	44.1	64.0	4.7	25.1	16.1	1.9	4.3
	60歳代	159	46.5	42.8	65.4	7.5	33.3	15.7	0.6	3.8
	70歳代	182	60.4	36.8	50.0	7.7	45.1	12.6	0.5	5.5
	80歳以上	118	63.6	28.8	44.9	8.5	30.5	8.5	3.4	13.6

家族構成別で見ると、他に比べ、夫婦・パートナーのみで「食品ロス削減につながる事業」の割合が高くなっています。

図表 10-70 吹田市が注力すべき分野（ごみ減量につながる）について（家族構成別）

単位：％

区分		有効回答数 (件)	プラスチックごみの分別 収集	リユース・リサイクル企業 等との協業	食品ロス削減につながる 事業	市民向けの講座や施設見 学会	使い捨てプラスチック削 減につながる事業	海洋プラスチック対策	その他	無回答
家族 構成 別	ひとり暮らし	182	45.1	36.3	50.5	3.3	36.3	15.9	3.3	7.1
	夫婦・パートナーのみ	330	53.6	38.5	59.4	6.4	33.0	13.9	1.8	5.5
	二世世代(親と子)	530	40.2	43.0	55.7	7.9	30.0	12.6	3.2	7.2
	三世世代(親と子と孫)	22	54.5	31.8	45.5	13.6	27.3	9.1	—	4.5
	その他	26	53.8	34.6	65.4	11.5	42.3	19.2	—	7.7

子供の有無別で見ると、子供有の方に比べ、子供無の方で「食品ロス削減につながる事業」の割合が高くなっています。

図表 10-71 吹田市が注力すべき分野（ごみ減量につながる）について（子供の有無別）

単位：％

区分		有効回答数 (件)	プラスチックごみの分別 収集	リユース・リサイクル企業 等との協業	食品ロス削減につながる 事業	市民向けの講座や施設見 学会	使い捨てプラスチック削 減につながる事業	海洋プラスチック対策	その他	無回答
子 子	子供有	557	40.8	42.4	55.7	8.1	30.0	12.6	3.1	7.0
	子供無	533	50.8	37.7	56.3	5.6	34.5	14.8	2.3	6.2